



1995.12.21(木)

第91回 同志社グリークラブ定期演奏会

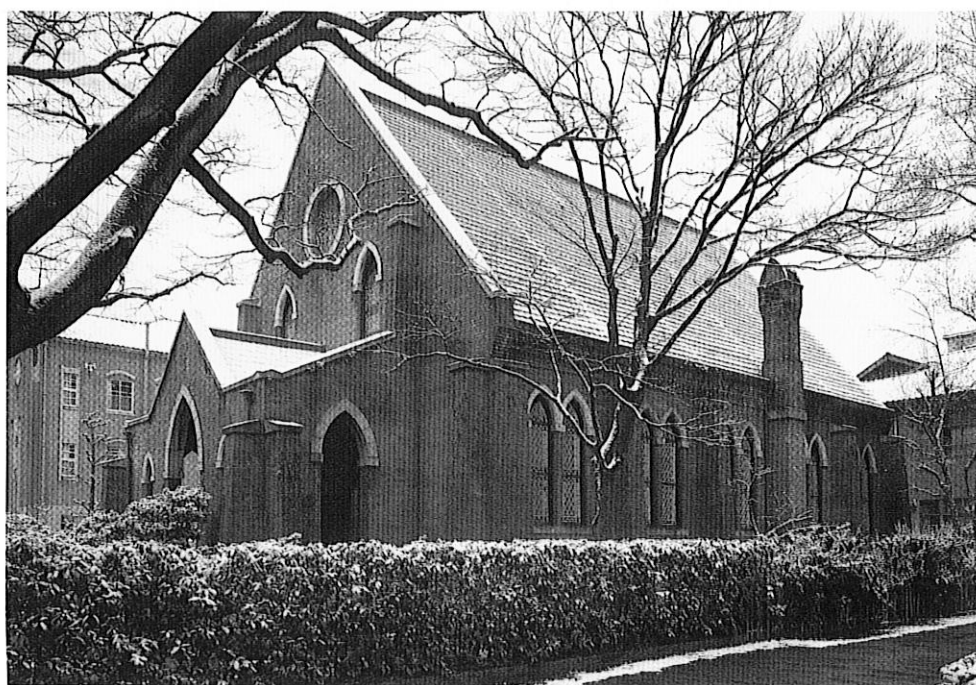
於：ザ・シンフォニーホール



Doshisha College Song

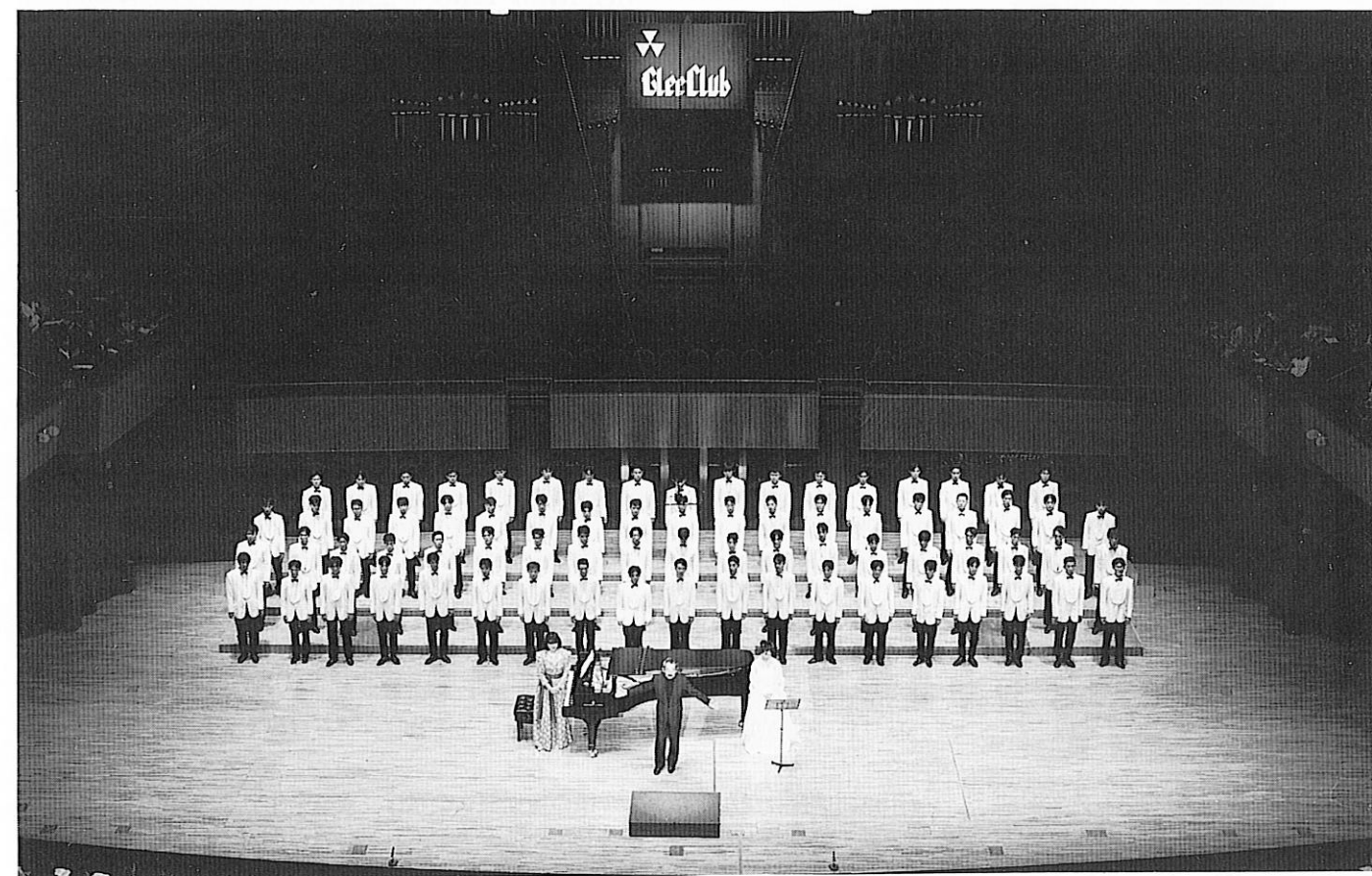
*One purpose Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide*

*Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our Earth
Still higher than selflove we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life divine
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and Brotherhood*



第 91 回 同志社グリークラブ定期演奏会

1995年12月21日 (木) ザ・シンフォニーホール



御 挨拶

本日はお忙しい中、私共同志社グリークラブ第91回定期演奏会にお越し下さいまして誠にありがとうございます。

今年は1月17日に阪神大震災という大惨事が起こり多くの方々が被災されたことや、戦後50周年を迎えたことで、さまざまな想いを皆様方が胸に抱かれたことと考えております。そういった中で私共同志社グリークラブで何が出来たかと考えました時に、常に目標に掲げている「聴衆と一体となった音楽」を作り上げ皆様方にお聴かせすることが一番に思い浮かびます。日頃の練習において積み重ねてきたことに対して部員一人一人がそれぞれの想いを込めて音楽として皆様方に表現していくことしかありません。しかし私共が作り上げる音楽が皆様方の心の中に大きな感動を与え、私共の心の叫びを伝えることが出来れば、私共にとってこれほど大きな喜びはございません。

今年になり欧州演奏旅行、東西四大学合唱演奏会、関西六大学合唱演奏会といった大きな行事を通じて得ることが出来た全てのものを今年の集大成であるこの定期演奏会に出し切るよう力一杯演奏したいと考えております。

最後に私共の活動を支えて下さった諸先生方、諸先輩方、本演奏会開催にご支援賜りました関係者全ての方々に厚く御礼申し上げます。

同志社グリークラブ幹事長 富 田 尚



同志社総長

松山 義則



同志社グリークラブ顧問

澁谷 昭彦

同志社グリークラブ
OB会会長

松村 時男

本日同志社グリークラブ定期演奏会が、音楽を愛する多くの方々のご出席を得て開催されますことを心からうれしく存じます。

同志社は1875年新島襄が山本覚馬と J. デイヴィスの助けを受けて祈りのうちに創立された、キリスト教主義教育を基本とする歴史と伝統をもつ学園であります。同志社創立までには、幾重もの困難が先生の前にたちはだかりましたが、深い信仰とあふれる情熱にささえられた先生は、苦勞のすえ、それらの障害をのりこえられたのであります。わが国に一つのキリスト教主義大学を創設するという先生の願いは多くの人びとによって受け継がれ、100年を超える歳月にわたって、自治、自由、良心に生きる若き人びとの集うところとなりました。

同志社グリークラブも本年創立91周年を迎えました輝かしい伝統をもつ学生合唱団であります。グリークラブは、献身的な諸先輩の努力によって築きあげられました。団員の諸君はこのすばらしい伝統を受け継ぎ、21世紀にむけさらなる発展を期して日々研鑽を積み、皆さまのあたたかいご支援をいただいておりますことは大きなほこりと存じます。

なお、同志社グリークラブは今年2月ヨーロッパへ演奏旅行を行い、輝かしい成果をあげ、帰国しました。これからもこの海外における豊富な演奏活動経験を生かして、国内外で一層活躍されるものと確信しております。

今宵は、団員の心を込めた演奏に心耳を傾けていただき、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

同志社グリークラブの創立90周年を記念し、「愛唱歌集」の発刊が計画された。90周年には出来上がらなかったが、目下、その編集作業が着々と進められており、間もなくグリー関係者、OBをはじめ、現役の学生諸君にも配布される予定である。編集方針としては、できるだけ歴史的価値のあるものとしたいということで、それが発行の遅れの一つの理由にもなっている。

定期演奏会は、「同志社グリークラブ」の「同志社グリークラブ」たるところを明確に提示する場である。そのためには、グリークラブの歴史と伝統を無視するわけには行かない。一方、伝統を踏まえた上で、それを乗り越え、さらに飛躍する試みもなされなければならない。現役の諸君にとって、これは「言うは易く、行なうは難し」である。

今年は間に合わなかったが、今後の定期演奏会には「愛唱歌集」が大いに役立つことを、編集委員の一人として期待している。ともあれ、今日の演奏会がどこまで定期演奏会の目的を達成できるのか、楽しみである。

幾つになるまで歌い続けることが出来るのかと、ふと考える時がある。思えば、高校時代より、七年間の海外生活の中休みを除けば、既に四十数年も歌い続けている事になる。

65歳かな、いや70歳まで大丈夫だろうなど、独り考えたりする。でも正直いって、今の自分の生活から合唱を取り上げられてしまうと大変な事である。心置きなく杯を酌み交わし、ゴルフに興じ、また真顔になって政治・経済を論じ合う仲間。いつの間にか、それらの相手は、すべて合唱仲間なのである。交際範囲が狭すぎるといわれるかもしれないが、この年になると、煩わしい人との交際を極力避ける向きがある。長年の社会生活を通して知り合った膨大な数の知人の中から淘汰されたこれらの仲間、私が如き単純細胞の人間は、彼らと交わるのが一番向いているのかも知れない。

最近になり、二つの大きな演奏会に出掛ける機会を得た。井上道義指揮による京響のマーラーの交響曲第8番（千人の交響曲）とジェイムス・レヴァイン指揮によるウィーン・フィルハーモニーである。ともに素晴らしい演奏会であり、それ以上の比較・批評をする術もないが、私にとっては、千人の交響曲がより感動的であった。井上道義の指揮もさることながら、われらがクローバークラブの指揮者である楠敏也氏による合唱指揮、そのメンバーのなかには、80数才の井田襄司先輩（昭和7年卒業）を始めとする多くの先輩、そして卒業間もない後輩たちの顔があった。まさに老若男女が一体となり懸命に歌い続ける姿を見、フィナーレの大合唱には、五体を駆ける感動も極まり、熱いものが込み上げてくるのを禁じ得なかった。

グリークラブの諸君、合唱は決して四年間で終わるものではない。むしろ君たちは、いまその道を歩み始めたばかりである。長い合唱生活を通じて多くの友と出会い、その友と喜びも悲しみも分かち合うようになる。今日のステージでハモッテいる仲間を大切に、長い人生での真の宝としてください。

第91回定期演奏会 おめでとう!!

Doshisha College Song

作詩：W.M.Vories

作曲：Carl Wilhelm

1st Stage

Spirituals

指揮：上野大介

1.Rock - A Ma Soul

2.Sometimes I Feel

Like a Motherless Child

3.My God Is a Rock

4.If I Got My Ticket,
Can I Ride?

5.Hold On !

3rd Stage

男声合唱とピアノのための「縄文」

作詩：宗 左近 作曲：荻久保和明

指揮：上野大介 ピアノ：長田育忠

I. 透明

II. 曙

III. 行進

IV. 波の墓

2nd Stage

さすらう若人の歌

“Lieder eines fahrenden Gesellen”

作詩・作曲：Gustav Mahler

編曲：福永陽一郎

指揮：本山秀毅 ピアノ：長田育忠

1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht

君が嫁ぐ日

2. Ging heut Morgen über's Feld

霧しげき朝の野辺に

3. Ich hab' ein glühend Messer

灼熱せる短刀もて

4. Die zwei blauen Augen von meinem Schatz

君が青きひとみ

4th Stage

Drei Männerchöre

作詩：F. Rückert 作曲：R. Strauss

指揮：関屋 晋

1. Vor den Türen

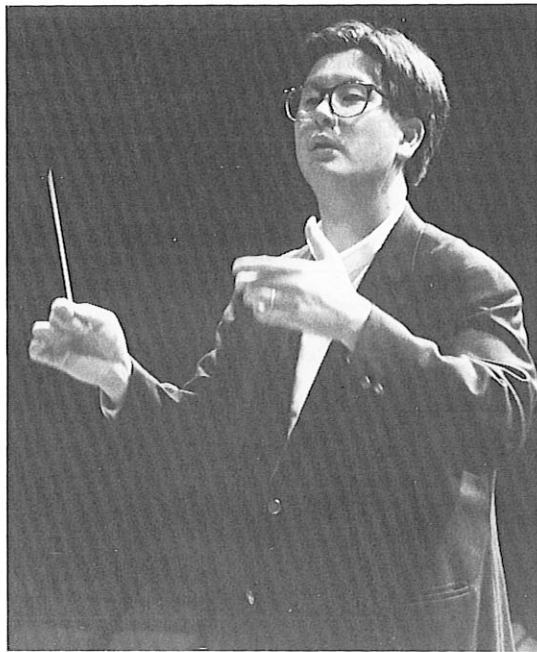
戸口で

2. Traumlicht

夢の中の光

3. Fröhlich im Maien

五月の喜び

客演指揮者／**山 秀 毅**

京都市芸術大学声楽部声楽専修卒業。西ドイツ国立フランクフルト音楽大学合唱指揮科に留学。1987年同大学を卒業。帰国後はバッハを主とする宗教音楽を中心に演奏活動を続ける。1988年仙台で開催された「日本バッハアカデミー」ではヘルムート・リリンクのアシスタントをつとめる。関西では解説を伴ったカンタータの演奏会「ゲシュプレヘスコンツェルト」を定期的に開催し、教会音楽の多角的な理解を目指している。これまでに「口短調ミサ」「ヨハネ受難曲」「クリスマスオラトリオ」はじめ数多くのバッハの作品を演奏する。

1991年秋にはクリストファー・ホグウッドの演奏会の合唱指揮をつとめる。また各地で合唱指導法の講師としてその普及にも努めている。

指揮をヘルムート・リリンク、ヴォルフガング・シェーファー、ウーベ・グロノスタイの各氏に師事。声楽を蔵田裕行、中村和男、佐々木成子の各氏に師事。

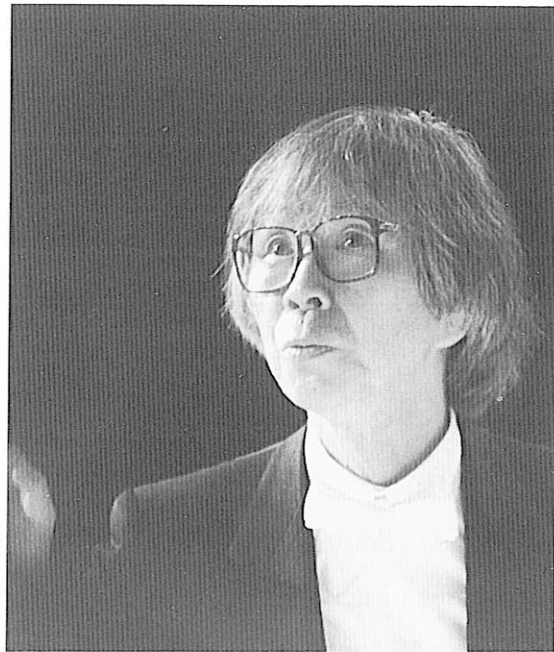
現在、同志社女子大学、大阪音楽大学、同志社大学神学部講師。京都バッハ合唱団主宰。

定期演奏会に寄せて

さまざまな合唱団のキャラクターの中には、その活動が別に音楽でなくてもいいような、気のあった仲間が集まって一つの目標に向かうことが第一に重要なのであって、たまたまその共通の課題が「歌うこと」であったというようなものがある。グリークラブもそういう面が多いのではないかと思います。実際、大学で合唱を始めた人の多くはそれまで合唱の経験のない人が多いが、音楽の面白さに気付くまでにはある程度時間を要するであろう。

しかし必ず言うておかねばならないのは、グリークラブのメンバーが上回生になればなるほど、彼ら自身の活動の価値を「音楽」におき始めるということである。これは音楽を専門に学ぶ学生（すべてとは言わないが）とちょうど反比例するように興味深い。グリークラブの中には、その深みにはまってその後も音楽の道に進んで行く人が後を断たない。

どんな辛いことでもひとつ壁を乗り越えようと、必ず得るものがある、そのうちのひとつがグリークラブの場合は、真摯に音楽を理解する姿勢だということは疑いない。そのお手伝いが出来るという意味において、この場に居合わせることは私の大きな喜びである。このマラーの名曲が、また一人音楽の深淵にメンバーを引きずり込むことを確信している。

客演指揮者／**関 屋 晋**

東京生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。現在、「松原混声合唱団」「湘南市民コール」をはじめとする十余のアマチュア合唱団の常任指揮者を務めるかわら、全国各地での客演指揮・講習会講演・コンクール審査などその活躍は多忙を極め、日本合唱界の第一人者である。

全日本合唱コンクールにおいては「松原」「湘南」を指揮して金賞を受賞し、また1978年の国際合唱コンクール（ブルガリア）において最優秀指揮者賞を受賞した。

また、傘下の合唱団で構成する「晋友会合唱団」を率いてオーケストラとの協演も多く、コーラスマスターとして国内外に名声を博し、特に小澤征爾氏からは絶大な信頼を受けている。「晋友会合唱団」と共に二度も「小澤／ベルリン・フィル」演奏会（ベルリン）に招かれ、あわせてCD／LD録音も行い絶賛を博している。

その後、「サイトウ・キネン・フェスティバルin松本」（1992～94）、「P. ブレーズ・フェスティバルin東京」（1995）などにも、「晋友会合唱団」を率いて出演。

1988年 神奈川県文化賞を受賞。

1994年 藍綬褒章を受賞。

現在、全日本合唱連盟副理事長、日本合唱指揮者協会理事。

初めての同志社

同志社グリークラブの客演指揮は初めてだ。同志社と言えば、日下部吉彦さん、浅井敬壺さんなど、現在でも大活躍の大先輩たちが、学生指揮者としてクラブをリードしてきたところだ。

最近では、尊敬する福永陽一郎先生が、指揮されていた時代があって、同志社の実力が急激に上昇して、同志社の音楽が我々の間で話題になった時があった。

そんな訳で、私の知っている同志社グリークラブは、合唱コンクール大学の部で、関学グリークラブと一位、二位を争っていた頃や、福永先生の指揮された「東西四大学」での演奏、私が合同指揮した、東西四連や、関西六連で聴いたグリークラブだから、いわば外から見たもの、もう出来上がっている同志社だけを見てきたので、その建設途中はどうなっているのか、非常に興味があって、客演をお引受けした。

私の印象に残っているのは、同志社はよく鳴る、朗々と歌うという感じなので、シュトラウスの男声合唱曲を選んだ。

溢れるような男声合唱の魅力に酔いしれたいと望んでいる。

ピアニスト／**長田育忠**

同志社大学法学部政治学科卒業。ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、ジョージ・ナードル、H・ビューグ＝ロジェの諸氏に師事。歌曲伴奏法をルドルフ・ヤンセン氏に師事。またオルガンをジャン・メルオー神父に師事。

主に音楽・合唱音楽等の伴奏者として演奏活動を続けるほか、宗教音楽のオルガニストとしても数多くの演奏会に出演するなど幅広く活躍。

1986年2月、ポストン交響楽団京都公演にスタッフとして参加。

1986年6月、90年1月、91年1月にリサイタルを開催。

社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員。

メッセージ

「縄文」の終曲「波の墓」の前半にかなり長いア・カペラの箇所がある。音楽的には非常に集中力を要する部分だが、伴奏者としてはそこで初めて、長く続いた緊張から心身ともに放たれる数分間である。先の関西六連では、高ぶった気持ちを静めながらそのゆるやかに流れる響きを聴いているうちに、私は何故か胸がいっぱいになってしまった。指揮者の上野大介君は驚くほど表情豊かな棒を振ってくれたし、またメンバーもそれに応えてよく歌った。殊に、一年生諸君にとっては初めての大きなステージであったが、上級生に勝るとも劣らぬその努力は本当に立派だったと思う。今日の再演を心から楽しみにしている。

「さすらう若人の歌」は、福永陽一郎先生の残された数ある歌曲の男声合唱版の中でも名作とされるもので、福永先生が出演された最後の定期演奏会で演奏した思い出深い曲である。本山秀毅先生とはこの春、ブラームスの作品で共演させていただいたが、その際、オーケストレーションの多彩な音色の変化をピアノという一台の楽器で表現する時のヒントを、たくさん得ることができた。今日の演奏にそれが少しでも生かせればと思っている。

気がつけば、あと十日で今年も終わり。振り返れば本当にいろいろな出来事の起きた一年であった。毎年当然のように行われている定期演奏会だが、よくよく考えれば、このようなすばらしい会場で多くのお客様に見守られて音楽会を持てるというのは、実に幸せなことである。

今日ここにすべての人々に感謝の気持ちを抱きながら、聴衆の皆さんにも、また演奏者にとっても心に残る音楽会となるよう願っている。

ヴォイストレーナー／**大久保昭男**

1953年、東京芸術大学声楽科卒業。矢田部勤吉氏に師事。1953年5月、NHKオーディションに合格。数多くの放送、演奏会に出演。近衛秀磨指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」。山田耕筰作曲、本人指揮のオペラ「黒船」（初演）。ドヴォルジャーク作曲「ルサルカ」（初演）などにも出演。1959年には、ドイツ・リートおよび日本歌曲による第1回リサイタルを開く。その後、慶應ワグネル、関西学院グリー、同志社グリー、明治大学グリー、法政大学アカデミー合唱団、立教大学グリーをはじめとする大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍、現在に至る。元、東京芸術大学講師。現在、昭和音楽大学短期大学部、音楽芸術主任教授。

メッセージ

本日は第91回定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。

本年は春にヨーロッパ演奏旅行を、そして、11月には広島での演奏会など、例年にはない活動をされ、君たちの音楽に対する情熱には心を強くうたれます。そんな君たちに接することは、私自身にとっても学ぶべきところがあり、音楽家として幸せに思います。

今回は91回目ということで、来るべく100回への大きな第一歩となる演奏会です。その演奏会で音楽の本場、ヨーロッパで学んだことや、数々の演奏会で得た経験を生かし、深い心で歌い上げてください。君たちの音楽に対するひたむきな姿勢は、きっと香り高い大輪の花を咲かせることでしょ。そして、いつまでも君たちの音楽に対する情熱が続くことを、また、そんな君たちと一緒に声楽の勉強をしていけることを願ってやみません。

最後に、同志社グリーのさらなる御発展御活躍をお祈り申し上げます。

第64代学生指揮者／**上野大介**

1973年、大阪に生まれる。春日丘高校時代より、ロック・バンド、クラシックギター、合唱指揮など多岐にわたる音楽活動を開始する。卒業後、同志社大学経済学部に入学生、グリークラブ入部を決意。圧倒的な才能と強力な統率力で一躍指揮者候補となり、昨年7月の国内演奏旅行において、副指揮者として初のステージに立つ。また、第90回定演では、石丸寛氏による新曲の下振りを担当し、氏より絶大な信頼を得、本番のステージ上では握手を求められるというセンセーショナルなエピソードを生んだ。充実した研鑽期間を終え、今年1月、第64代学生指揮者に就任。2月のフェアウェル・コンサートにおいて「草野心平の詩から」で念願のデビューを果たす。その後直ちにヨーロッパに出発し、ロンドンを皮切りに、パリ・ベルリン・フランクフルト・チューリッヒなど、計5ヶ国7都市において華々しく海外デビューを飾る。その間、本山秀毅氏から数多くのアドバイスを受ける。帰国後、6月の同関交歓演奏会で「草野心平の詩から」を再演。これは多田武彦氏本人をして、「かつてないタイプの名演」と言わしめた上、後日、詳しい感想と賛辞が綴られた手紙を送られるほどの演奏であった。また、11月の関西六連では難曲「縄文」を成功に導き、各方面から高い評価を得、作曲家荻久保和明氏からも絶賛された。

燃えるような棒と独特の話術で、部員を緻密なアンサンブルへと引き込むが、時にエキセントリックな一面も見せ、指揮棒を投げつけ譜面台を蹴り倒すことも数回。しかし、常に新しい世界へと導こうとする彼に、部員の信頼も厚い。今宵は、指揮者としての四年間の集大成を披露してくれるであろう。そのステージが今、始まる。

第31回 全同志社メサイア演奏会

1995.12.24(日) 京都コンサートホール

指揮 山下 一史 Sop 松下悦子 Ten 金谷良三
Alt 竹本節子 Bass 三原 剛

開場: 16:00 開演: 17:00 入場料: 1,500円 (全席自由)
主催 全同志社メサイア演奏会実行委員会
〈お問い合わせ〉同志社グリークラブ・同志社交響楽団BOX 075(251)3185 (呼)

第64回関西学院グリークラブリサイタル

- 1996年1月20日(土) 神戸: 神戸文化ホール大ホール
- 1996年1月28日(日) 大阪: フェスティバルホール

I. MISSA 作曲/DON ROSENZO PEROSI 指揮/林 雄一郎 オルガン/岡安 早苗
II. 七つのスペイン民謡 作曲/Manuel de Falla 指揮/八木俊嗣 ピアノ/細見真理子
III. Afro American Song 指揮/広瀬 康夫 ピアノ/長田 育忠
IV. "Beatles Nunber's" 指揮/北村 協一 ピアノ/藤田 雅
V. 男声合唱組曲「中原中也の詩から」 作曲/多田武彦 指揮 北村 協一

〈お問い合わせ〉関西学院グリークラブホール TEL/FAX 0798-52-6471

I MESSE

作曲/FRANZ HOFER
指揮/山本祐子

III 企画ステージミュージカル 「Me and My Girl」より

編曲/中村 健
指揮/山本祐子

神戸女学院大学 コーラス部

第36回 定期演奏会

1996年3月1日(金)

開場 17:30 開演 18:00
尼崎総合文化センター
アルカイクホール
お問い合わせ/阪口愛子0722-92-0283

II 女声合唱組曲 海鳥の詩

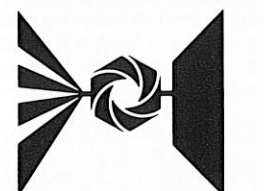
作曲/廣瀬量平
指揮/大西 綾

IV 女声合唱組曲 ひたすらな道

作曲/高田三郎
指揮/山本祐子

きらめく瞬間を未来に伝えたい。

あなたのきらめくその一瞬を素敵にとらえる。
未来に残す価値ある記念写真をお届けするために、
いつもいっしょけんめいのお阪フォトサービスです。



株式会社 大阪フォトサービス

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17 TEL.(06)443-7608(代表) FAX.(06)443-4437

YALE GLEE CLUB ASIA TOUR'96

エールグリークラブ日本公演決定!

◆1996.6.19 兵庫公演

Joint Concert with

- ・関西学院グリークラブ
- ・武庫川女子大学コーラス部

at 尼崎総合文化センター アルカイクホール

◆1996.6.20 京都公演

Joint Concert with

- ・同志社グリークラブ
- ・同志社女子大学メサイア研究会
- ・神戸女学院大学コーラス部

at 同志社女子大学内 栄光館

お問い合わせ先/ 関西学院グリークラブホール TEL/FAX(0798)52-6471
同志社グリークラブ 水野 TEL/FAX(075)842-9219

第45回東西四大学合唱演奏会

合同指揮
松原千振

同グリー単独
「季節へのまなざし」
指揮: 小泉ひろし

1996.6.30

フェスティバル
ホール

〈お問い合わせ先〉関西学院グリークラブホール TEL/FAX 0798(52)6471

Spirituals

まず、最初にビートがある――。

第64代学生指揮者 上野 大介

まず、最初にビートがある――。それは、心臓の鼓動、宇宙のリズム、大地の息。音楽が流れ出すと、体中の細胞が疼き始める。心臓が荒れ狂ったドラムのように激しくのた打ちまわる。体が動く。ステップを踏む。止められない。これがビートだ。スピリチュアルズだ。ビートはスピリチュアルズ、スピリチュアルズはビート。ビートは僕を突き上げ、高揚させ、そして解放してくれる。それにしても何というスゴイ音楽だろう。

高校生の頃、合唱の練習の時に足でリズムをとっていてよく先輩に叱られた。つまんねえな。合唱なんて、ホント、つまんねえよ。そう思っていた僕。そんな僕を救ってくれたのがスピリチュアルズだった。合唱でも、こういう音楽ができるのかと、純粹に感動した。

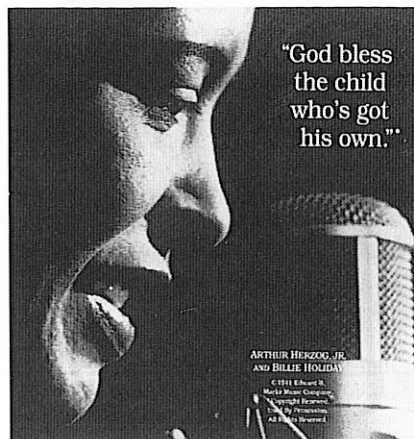
スピリチュアルズをきっかけとして黒人音楽に興味を持ったが最後、虜になった。ブルースにジャズ、もう最高。高校一年の冬、あのB・B・キングを生で見た。しゃがれた声にギターがからむ。B・Bの歌はいつも何かを背負っている。その何かを吹き飛ばそうとするかのように、シャウトする。ギターがしゃべる、しゃべる。ギターが泣く、泣く。単純なスリー・コードの、たった12小節のフレーズの繰り返しなのに、どうしてこんなに感激するのか。そこにも、スピリチュアルズの魂は息づいていた。

史上最高のジャズ・シンガー、ビリー・ホリディ。そのあまりにも悲しい歌。ひどく落ち込んでしまった時、彼女の歌を聴いていると、彼女はいつも僕にこう言う。「あたいの背負ってる悲しみに比べりゃ、あんたのなんてカスみたいなものさ!!」きっとそうに違いないよ、ビリー。こんな悲しみとは言えないんだ。ありがとう、もう一度がんばってみるよ……。こんな風にして、何度彼女の歌に励まされたことか。ビリー・ホリディはれっきとした1940年代のスピリチュアルズだ。

スピリチュアルズとは、人々（黒人達）が生きるために闘った、闘いの記録である。18世紀から19世紀の約100年間に、アメリカ両大陸で売買された黒人奴隷の数は1500万人を超えたと言われている。アフリカから遠くはなれ、黒人達は、「言葉をしゃべる家畜」として、ひたすら労働に服さねばならなかった。その悲惨な生活は、我々の想像などはるかに超えた苛酷なものであったに違いない。鎖につながられ、ムチ打たれながら、彼らはその運命を歌に託した。彼らにとって歌は生きる手段であった。それがどのように生み出されていったかを調べた、ある初期の歌詞採取者はこう語っている。

「それはまあ、ざっとこんな具合だ。主人に呼ばれて行くと、わしのことをえらく怒っていて、食事は抜き、100回の鞭打ちだというわけさ。それを見ていた仲間がわしを気の毒に思うと、その晩、お祈りの集会のときにみんなに話して、みんなでわしのことを歌にするんだよ。なかには歌がとても上手い奴がいて、そいつを中心にみんなでああこうだあってやっているうちに、歌が生まれる。そんな具合さ。」

また、黒人達は、聖書に描かれたキリストやユダヤの民たちの受難の物語を自分たちの姿に置き換え、歌った。キリストにすぎることにより、来世に希望を抱き、現世の苦悩を忘れようとした。それは、信仰というより、悲しい現実逃避のための手段だった。しかし、内面的にはこのようなとても暗さをもちながらも、スピリチュアルズはエネルギーに満ち溢れている。そのエネルギーに僕は感動するのである。これほど尊い音楽は他にそうはあるまい。



"God bless the child who's got his own."

ARTHUR HERZOG, JR. AND BILLIE HOLIDAY

今回、こうして定演の第一ステージでスピリチュアルを取り上げたわけだが、決断するまでにかなり時間がかかった。いろいろ考え抜いた末、一番自分の感性に自信が持てるものと思い、スピリチュアルズを選んだ。やるからには、普段はあまりやられないような珍しい曲をと思い、探し始めたが、これがなかなかない。結果的に「Rock - A - Ma Soul」、「My God Is a Rock」、「Hold On!」といった少しは珍しい曲を取り上げることができたわけだが、これも、多くの方々の御協力があったからである。特に、数多くの貴重な楽譜を快く提供して下さい上、アドヴァイスまでして下さい関西学院グリークラブOBの広瀬康夫先生と、我が団OBの森田秀夫先輩には、心より感謝致します。

僕が考えるようなビート感覚を、どこまで表出させることができるかわからないが、精一杯チャレンジしてみたいと思う。どうか、リラックスして聴いて下さい。

Rock - A Ma Soul
Rock - a ma Soul in de Bosom of Abraham
Oh! Rock - a ma Soul
Rock - a ma Soul in the Bosom of Abraham
Oh! Rock - a ma Soul
Befo' I stay in hell all day
I'd sing an' pray myself away,
Oh! Rock - a ma Soul
I'm gwineter pray an' never stop
Until I reach de mountain top.
Oh! Rock - a ma Soul
I come dis night to sing an' pray
To drive ol' Satan far away.
Oh! Rock - a ma Soul
Dat heab'nly home is bright an' fair
But mightly few can enter dere.
Oh! Rock - a ma Soul
Rock - a ma Soul in the Bosom of Abraham
Oh! Rock - a ma Soul

Sometimes I Feel Like a Motherless child
Sometimes I feel like a motherless child.
Sometimes I feel like a motherless child,
A long way from home. Long way from home.
(Arr.by Parkey LaBach)

My God Is a Rock
My God is a rock, in a weary land,
Shelter in a time of storm.
I know he is a rock in a weary land,
Shelter in a time of storm.
Stop'n' let me tell you 'bout the Chapter One,
when the Lord God's work was just begun,
Stop'n' let me tell you 'bout the Chapter Two,
when the Lord God's written his Bible through
Stop'n' let me tell you 'bout the chapter three,
when the Lord God' died on Calvary!
And my God is a rock in a weary land,
Shelter in a time of storm.
And I know he is a rock in a weary land,
Shelter in a time of storm.
Stop'n' let me tell you 'bout the chapter Four,
when the Lord God visit 'mong the poor,
Stop'n' let me tell you 'bout the chapter Five,
when the Lord God brought the dead alive,
Stop and let me tell you 'bout the chapter Six,
He went in Jerusalem and healed the sick.
Stop, let me tell you 'bout the chapter Sev'n,
Died and ris'n and went to Heav'n
Stop, let me tell you 'bout the chapter Eight,
John seen Him standing at the Golden Gate.
Stop'n' let me tell you the chapter Nine,
Lord God turned the water to wine.
Stop'n' let me tell you the chapter Ten,

John says He's coming in the world again,
My God is a rock in a weary land,
Shelter in a time of storm.
O my Jesus Amen.

(After Robert Shaw
Arr.by Yoichiro Fukunaga)

If I God My Ticket, Can I Ride?
Lawd, if I got my tiket, can I ride?
Ride away to the heaven that mornin'?
Hear a big talk of the Judgment Day.
I got no time to projick away.
Away by and by without a doubt.
Jehovah will order His train about.
Clean out the world and leave no sin.
Tell me, please, where have you been?

Hear a big talk of the Gospel Train.
You wanna get on it. Yeah, that's my aim!
Stand at the station and patiently wait.
The train in comin' and it's never late.
So long comin' that it worried my mind.
I thought it was late, but was just on time.
Lawd, if I got my ticket, can I ride?
Ride away to the heaven that mornin'?
(Arr.by Robert Shaw)

Hold on!
Keep yo' han' doaha the plow, Hold on!
No - ah, No - ah let me come in de doahs ah
Shut'n all de winduhs pinned.
Keep yo' han' doana the plow, Hold on!
No - ah said you done lost yo' track, You can't
Plow straight'n keep a lookin' back.

Keep yo' han' doaha the plow, Hold on!
No - ah, No - ah let me come in de doahs ah
Shut'n all de winduhs pinned.
Keep yo' han' doana the plow, Hold on!
No - ah said you done lost yo' track, You can't
Plow straight'n keep a lookin' back.
If you wanta go to heaven let me tell.
You how jus' keep yo' han' doan the gospel plow. Hold on!
If that plow stays in yo' han' land you straight
In de promise lan' keep yo' han' doan a the plow, Hold on!
O brother hold on! O sister Hold on!
Mary had a golden chain, ev'ry link spelled
My Jesus' name, Keep yo' han' doana the plow, Hold on!
Keep on climbing and don't you tire,
Ev'ry roun' gues high'r 'n high'r,
Keep yo' han' doana the plow, Hold on!

(Arr.by Eugene Thamon Simpson)

さすらう若人の歌

Lieder eines fahrenden Gesellen



Gustav Mahler

(ある楽曲が出だしの調と異なる調で終わる)、不規則なリズム型(2拍子系と3拍子系の交替など)、4度の音程の独特の用い方等があるが、これらの特徴は全て、後の作品において発展するそれらの萌芽となっている。しかし、ここでの23歳のマーラーの音楽は、後のどの作品よりも、みずみずしい若さで輝いているのである。

《さすらう若人の歌》についてマーラーが、友人フリードリヒ・レーアに宛てた手紙

「親愛なるフリッツ！ 今日、元日の朝、僕のまず初めの思いを捧げよう……。僕は、ゆうべ、ひとりの彼女のそばに坐って、僕達はほとんど口をきかずに新年がやってくるのを待っていた。彼女の思いはそこに居合わせた僕に向けられてはいなかった。そして鐘が鳴り、涙が彼女の目から流れ落ちたとき、その責任はあまりにも恐ろしいことに僕にあると思われたので、僕はその涙を拭いてあげることができなかった。彼女は隣室に行き、しばらくのあいだ窓辺で黙って立っていた。そして彼女がまだ泣きながら戻ってきたとき、名状しがたい苦しみが、永久になくならない隔壁のように、僕達のあいだに据えられたのだった。それで僕は彼女の手を握りしめ、そして出てゆくことしかできなかった。僕が玄関のところに来たとき、新年を告げる鐘が鳴り、塔からはおごそかなコラールが響いてきた。……僕は夜通し、夢のなかで泣きつづけた。……僕は歌曲集をひとつ書いたが、さしあたって6曲で、これらはみんな彼女に捧げられたものだ。彼女はこれらの歌曲を知ってはいない。しかしこれらの歌は、彼女の知らないことは何ひとつ歌ってはいない。……これらの歌曲は、運命にもてあそばれたひとりの若者が、今や世間に出て行き、そしていずこともなくさすらうといったようにまとまりをもって着想されている。」(1885年1月1日付け、フリードリヒ・レーア宛)

*……今日では4曲しか残っていない。

マーラーと《さすらう若人の歌》について

グスタフ・マーラー(1860～1911)は、作曲家であると同時に指揮者としても有名で、ウィーン宮廷歌劇場監督やウィーン・フィルの指揮者等ウィーンでの活躍を中心として50余年の生涯の大半を、演奏活動にあてていた。こうした多忙な演奏活動の間をみては作曲をしていたマーラーであるので、その作品も決して多いものとは言えない。マーラーの作品は「大地の歌」を含む11曲の交響曲と、「さすらう若人の歌」「少年の不思議な角笛」「亡き子を偲ぶ歌」「リュッケルトの詩による5つの歌曲」他の歌曲(ほとんど管弦楽伴奏付)等、交響曲と歌曲に限られる。これらの作品群の出发点に「さすらう若人の歌」と第1交響曲があるのだがマーラーのその後の創作活動は終始この2曲で呈示されたふたつの対立的な音楽形式、つまり絶対音楽の代表である交響曲と、標題音楽の代表である歌曲とが、いかに融合されるか、という問題に向けられていたともいえる。つまり「さすらう若人の歌」と第1交響曲はほぼ同時期に並行して作られ、「さすらう……」の第2曲が第1交響曲の第1楽章第1主題に、第4曲の後半が第3楽章の中間部へほとんどそのまま用いられているように、密接な関係をもっている。また、第2～第4交響曲は〈角笛交響曲群〉と呼ばれるように、歌曲集「少年の不思議な角笛」の不即不離の関係をもっており、「亡き子を偲ぶ歌」「リュッケルトの詩による5つの歌曲」は第5～第7交響曲と内面的に深く結びついている。そして、第8交響曲(「千人の交響曲」)、「大地の歌」へと至るのである。

「さすらう若人の歌」は、マーラー自身の詩による4曲の歌曲から成り、1883年の12月から1884年の暮れまでの約1年間に作曲された。当時のマーラーは23歳で、カッセル王立歌劇場の副指揮者であったが、この曲は、歌劇場ソプラノ歌手のヨハンナ・リヒターに対する失恋体験を反映して作曲されたものである。

この曲の特徴として、伴奏の根本に管弦楽的な構想(本来は独唱と管弦楽伴奏の曲である)、民謡風で素朴な全音階的旋律、葬送行進曲の使用(第4曲)、発展的調性

1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht

Wenn mein Schatz Hochzeit macht
Fröhliche Hochzeit macht
Hab' ich meinen traurigen Tag!
Geh' ich in mein Kämmerlein.
Ounkles Kämmerlein.
Weine! Wein!
Um meinen Schatz.
Um meinen lieben Schatz.
Blümlein blau! Blümlein blau!
Verdorre nicht. Verdorre nicht!
Vöglein süß! Vöglein süß!
Du singst auf grüner Heide!
Ach! Wie ist die Welt so schön!
Ziküth! Ziküth!
Singet nicht! Blühet nicht!
Lentz ist ja vordel!
Alles singen ist nun aus!
Des Abends wenn ich schlafen geh'
Denk' ich an mein Leid! an mein Leide

2. Ging heut morgen über's Feld

Ging heut morgen über's Feld
Tau noch auf den Gräsern hing
Sprach zu mir der lust'ge Fink:
"Ei du Gelt?
Guten Morgen! Ei Gelt? Du!
Wird's nicht eine schöne Welt!?
Schöne Welt!?
Zink! Zink!
Schön und flink!
Wie mir doch die Welt gefällt!"
Auch die Glockenblum' am Feld
Hat mir lustig guter Ding'
Mit den Glockchen.
Klinge, klinge, klinge, kling.
Ihren Morgengruß geschellt:
Wird's nicht eine schöne Welt!?
Schöne Welt!?
Klinge, kling!
Klinge, kling!
Schönes Ding!
Wie mir doch die Welt gefällt!
Heia!
Und da fing im Sonnenschein
Gleich die Welt zu funkeln an:
Alles, alles, Ton und Farbe gewann!
Im Sonnenschein!
Blum' und Vogel
Gross und Klein!
"Guten Tag, guten Tag!
Ist's nicht eine schöne Welt?
Ei, du! Geld?
Ei, du! Geld?
Schöne Welt!"
Nun fängt auch mein Glück wohl an!?
Nun fängt auch mein Glück wohl an!?
Nein! Nein!
Das ich mein'
Mir nimmer, nimmer blühen kann!

1. いとしい人が婚礼をあげる時

いとしい人が婚礼をあげる時
幸せな結婚をする時
その日は、僕にとっては悲しい日だ!
僕は自分の小部屋に、
暗い小部屋に引きこもる。
泣け!泣け!
いとしい人のことを、
愛する人のことを思っ
青い小さな花よ!青い小さな花よ!
枯れないでくれ!枯れないでくれ!
可愛い小鳥よ、可愛い小鳥よ、
お前は緑の野で歌う!
ああ!この世はなんと美しいのだ!
ツイクツ、ツイクツ!
もう歌わないでくれ、咲かないでくれ!
春はすぎ去ったのだ!
どんな歌も、もうおしまいだ!
夕べに眠りにつく時、
僕は自分の悲しみを思う、悲しみを!

2. 今朝、野辺を行くと

今朝、野辺を行くと、
露がまだ草に宿り、
陽気なウソ鳥が僕に話しかけた。
「よお、君!どうだね?
おはよう!よお、どうだね?君!
すばらしい世の中じゃないですか!?
すばらしい世の中じゃないですか!?
ツインク、ツインク!
美しくて びちびちしている!
なんたって僕はこの世が大好きさ!」
そして野辺の釣鐘草も、
陽気に、上機嫌で、
小さな釣鐘を鳴らして、
クリン、クリン、クリン、クリンと
僕に朝の挨拶をした。
すばらしい世の中じゃないか!?
すばらしい世の中じゃないか!?
クリン、クリン!
クリン、クリン!
なんてすばらしいだろう!
なんたって僕はこの世が大好きさ、
ハイアー!
そして太陽の光に照らされて
今や世界はきらめきはじめる。
全てのものが太陽の光に照らされて
音と色彩を獲得した!
花も小鳥も、
大いなるものも、小さきものも!
「こんにちは、こんにちは!
すばらしい世の中じゃないですか!?
よう、君!どうだね?
よう、君!どうだね?
すばらしい世の中じゃないですか!」
さあ、僕の幸運も始まるのだろうか?!
さあ、僕の幸運も始まるのだろうか?!
いや、ちがう!
僕は知っている。僕はそんな花など
決して咲きはしないのだ

3. Ich hab' ein glühend Messer

Ich hab' ein glühend Messer,
Ein Messer in meiner Brust.
O weh! O weh!
Das schneid't so tief
In jede Freud' und jede Lust.
So tief, so tief!
Ach, was ist das für ein böser Gast!
Nimmer hält er Ruh',
Nimmer halt er Rast!
Nicht bei Tag, nicht bei Nacht,
Wenn ich schlief!
O weh! O weh! O weh!
Wenn ich in den Himmel seh',
Selich zwei blaue Augen steh'n!
O weh! O weh!
Wenn ich im gelben Felde geh',
Selich von fern das blonde Haar
Im winde weh'n!
O weh! O weh!
Wenn ich aus dem Traum auffahr'
Und höre klingen ihr silberin Lachen,
O weh! O weh!
Ich wollt' ich lag
Auf der schwarzen Bahr',
Könn't nimmer,
Nimmer die Augen aufmachen!

4. Die zwei blauen Augen von meinen Schatz

Die zwei blauen Augen
Von meinen Schatz,
Die haben mich
In die weite Welt geschickt.
Da musst'ich Abschied nehmen
Vom allerliebsten Platz!
O Augen, blau!
Warum habt ihr mich angeblickt?
Nun hab'ich
Ewig Leid und Grämen!
Ich bin ausgegangen
In stiller Nacht, in stiller Nacht.
Wohl über die dunkle Heide.
Hat mir niemand Ade gesagt, Ade!
Ade! Ade!
Mein Gesell'war Lieb'und Leide!
Auf der Straße steht ein Lindenbaum
Da hab'ich zum ersten Mal
Im Schlaf geruht!
Unter dem Lindenbaum,
Der hat seine Blüten
Über mich geschneit.
Da wusst'ich nicht,
Wie das Leben tut,
War alles, alles wieder gut,
Ach alles wieder gut!
Alles! Alles!
Lieb'und Leid!
Und Weld und Traum!

3. 僕は灼熱の刃をもっている

僕は灼熱の刃をもっている
刃を胸に押し当てて。
ああ、つらい!何と苦しいことか!
それが深く切り刻む
すべての喜びとすべての願望を。
こんなに深く!こんなに深く!
ああ、なんてひどい奴だ!
奴は決して眠らず、
決して休まない。
昼だけでなく、夜も、
僕が眠っている夜も!
ああ、つらい!何と苦しいことか!
僕は空を見ると、
青い二つの瞳を見てもう!
ああ、つらい!何と苦しいことか!
黄ばんだ野辺を行くと、
僕は、遠くブロンドの髪が
風になびいているのを見てもう!
ああ、つらい!何と苦しいことか!
夢から醒め、あの人の銀の鈴のような
笑い声が響くのを聞くと、
ああ、つらい!何と苦しいことか!
僕は、黒い棺に
身を横たえて、
できるなら二度と
眼を開けないでいたい!

4. いとしい人の二つの青い瞳

いとしい人の
二つの青い瞳
それが僕を
遠い世界へと送り出したのだ。
それで僕は、何よりも愛する所に
別れを告げねばならなかった。
ああ、青い瞳よ!
なぜお前は僕を見つめたのだ?
今や僕は、
永遠の苦悩と嘆きを負っている!
僕は静かな夜に
出て行った、
そう、暗い荒野をこえて。
誰も僕に別れを告げてはくれなかった、
さようならと!
僕の道連れは愛と悩みだけだった!
道の傍らに一本の菩提樹が立っていた、
僕は、そこで初めて
安らかに眠った!
菩提樹の木の下で、
その木は僕の上に花びらを
雪のように降らせた。
すると僕は、現実が
どんなものかを忘れてしまい、
全てが、全てが再び好ましくなり、
ああ、全てが再び好ましいものとなった。
全て、全てが!
愛も悩みも!
そして、この世の夢も!

男声合唱とピアノのための「縄文」

指揮するにあたって

1995年の11月3日は、同志社グリーククラブにとって決して忘れることのできない日となった。この日、我々は確かな手応えのうちに、「緋文」を歌い切ることができた。本当に苦しかった練習の日々が報われる、その喜びを全身に感じながら、フェスティバルホールを後にした。しばらくして、各方面から大きな反響が我々のものに寄せられた。そのどれもが、我々を新たに力づけてくれるものばかりであったので、部員一同気をよくし、一週間ほどの間は、完全にその喜びにひたりきっていた。しかし、いつまでもそうしているわけにはいかなかった。当然のことだが、何もかもがうまくいったわけでは決してなかったのだから。僕自身、演奏中にも気になったところはあった。テープを聴いてみて新たに気付かされた問題もいくつもあった。また、技術的な問題以上に、精神的な面も含め、定演に向けてこの曲をどのように構築し直すかという問題は、我々の前に大きな壁として立ちちはだかった。こんなところで止まるわけにはいかない、何とか壁を越えたい。そう思い、新たな刺激を求め、作曲者である荻久保和明先生を練習にお招きする決心をした。これは我々にとってきっとエキサイティングな体験になるだろうし、この貴重な経験を得た今夜の「緋文」は、六連とはまた違った演奏になるのではないかと僕自身大いに期待していた。

この曲は宗左近氏の詩集『縄文』から四篇の詩が選ばれ、作曲されたものである。詩は、戦争という現代の不条理の中で、一方的に死を余儀なくされた魂へのレクイエムという性格が強い。詩人は、それら多くの彷徨える魂と、『縄文』—無垢に純潔な精神と文化を持ちながらも、弥生という文明によって滅ぼされた過去の不条理—とを一体化して描こうとしている。しかもその根底にあって詩人を突き動かしているのは、単に魂を慰めようなどという生易しい心情ではなく、強烈な罪の意識である。母を失くし、親しい友を失ったあの戦争。同じ時代を生きながらも、自分は生き残ってしまったという負い目。詩集『新縄文』の中の作品「罪と罰」は、次のように始まる。

お母さん あなたを死なせてしまいました
力を尽くせば救い出すことができたのに
ともだちたち きみたちを死なせてしまいました
工夫を凝らせば死地にゆかせないことができたのに

戦争という状況ではどうすることもできなかったのだと、大抵の人が自己弁護及至自己正当化してやりすごすところに、詩人は「罪」を感じる。「縄文」とオーバーラップさせようとする行為



第64代学生指揮者 上野 大介

もまた、自分は魂文人を犯し、滅ぼした弥生人であると認識するところから始められているのである。詩人はこの苦しく辛い罪の意識を背負いながらも、懸命に彷徨える二つの魂たちを現代に呼び醒まそうとする。その祈りによって、「地球に落ちない光」のように浮遊し続けていた魂たちは、ゆれあい、きらめきあいながら甦てくる。詩人の深い「愛」がそれらの魂に、確かに生きた証を取り戻させ、鎮魂へと向かわせるのである。

廃墟は廃墟として生きてゆくから
 化石は化石として生きてゆくから
 廃墟の上に虹がたち
 化石の上に虹がたち
 ああ きみたちの落とした未来の種子の花
 わたしたちの瞳の底の記憶の花
 咲かないだろうか
 輝かないだろうか

『縄文』を振ろうとする時、僕は自分という人間の奥深くにある何かと対峙せねばならないような、重苦しい感覚に囚われる。生半可に取り組もうとする姿勢を、この曲は拒絶するのだろう。だから毎日の練習一つ一つが真剣勝負になる。もちろん、歌う方も。しかした、思い入れを強くすればするほど、望み通りに表現することは困難を極めた。僕は部員のみんなに、「そこにある〈縄文〉という世界にただ近づくんじゃない、自分の中にある〈縄文なるもの〉を呼び醒まそう!!」と呼び掛け続けた。何度も何度も同じフレーズを執拗に繰り返して振り、歌わせた。もちろん、うまくいかない時の方が多かった。そんな時は本当にへとへとになった。魂を削り取られていく作業のように思えた。だが、懸命に食いつくれたる部員達の熱いまなざしが、僕を新たに奮い立たせてくれた。みんながいなければ、今日のステージなどありえなかった。妥協を嫌い、常に全力でぶつかってきてくれるトップ。どんなに叩きのめされても、最後には必ずはい上がってくるセカンド。一步一步着実に、前進することを決してやめようとしないうがバリトン。いつもすべての支えとなり、時に魂のかたまりのような音を噴出させるベース。みんなすばらしい仲間達。本当にありがとう。そして、長田育忠先生、先生から学んだことはどんなに数多いか知れませんが、心から感謝致します。

会場のみなさん、どうか我々の真の叫びを最後までお聴き下さい。よろしくお願いします。

マイナーだということ

はっきり言って僕はマイナーな作曲家だと思っている。「季節へのまなざし」だとか、「IN TERRA PAX」などの売れすじの曲もあるが、それらは技術的にいく分易しく、メロディラインのはっきりした曲だからだろう。僕の「縄文」シリーズのものや「しゅうりえんえん」などは驚くべきことに一年間の印税が996円もあるのだ。男声の曲もたくさんあるが、ほとんど未出版である。

“それでいい”と思っている。僕の「縄文」が多くの人の共感を呼ぶとは思えない。しかし、ごくわずかの人には確実に伝わって欲しいと願っている。僕は本質的にそういう性質の作曲家で、そういう曲をこそ書きたいと思っているのだろう。

そもそも合唱などと言うものは芸術の中の超マイナーな分野であり、なかでも男声合唱をやっているなんて言うことは、それだけでもう十分オタクなことなのだ。まして、学生だけで「縄文」をやろうなんて……。大胆というか、無謀というか、怖いもの知らずというか、身の程をわきまえないというか……。あたってくだげがいい。無傷で済むはずはないのだから。もし誰か一人にでも感動が伝わればそれでいいではないか。

君達の真実の叫びを聴かせて下さい。そして忘れないでいて欲しい。マイナーにはマイナーの意地があるということを。演奏会の御成功を祈っています。

萩久保 和明

透明
流れる
雲が空に
水に魚が
顔を閉じて
沈む
夕日が枯葉に
涙に瞳が
灯をうつし
ふるえる
鳥が風に
波に星が
しみこんで
溶ける
光りが別れに
絳量に虹が
縁どられ
ゆがむ
地球が、虹に
明日に昨日が
突きいつて
吊りあがる
痛みが夜に
由に今日が
目をむいて
はじまる
曙
物は語が夢に
抱きあつて二人は燃えた
燃えうつつて一人は消えた
朝が遠かつた
海のない粘土に
舟が刻み残されていた
煌いていた炎の涙で
飛べない鳥の翼のなかでしか
濡れた闇は喘いでいなかった
昨日と明日の夕映えだった 破片となつた 破片かひらとなつた
噴火の墳墓が山にも空にもゆらめいていた

火女よ 火子よ
 火子よ 火女よ
 吹きあげられた青さの奥で
 崩れて雲は煮えていて
 魂はただ沈んだり浮かんだりした
 地球に落ちない前の曙のように
 折りはまだ闇となることができなかったら
 粘土の舟は漂いだせないでいた
行進
 しんしん しんしん しんしん しんしん
 しんしん しんしん しんしん しんしん
 しんしん 歩め
 きみたち行進する
 土偶たち行進する
 集まれ波 波うて波
 ばらばら波 はがれ波
 くだけ波 あられ波
 波のない波
 地球につもらぬ雪のふるなかを
 しんしん しんしん しんしん しんしん
 しんしん しんしん しんしん しんしん
 おこれよ 地震
 落下傘兵が落下傘を追いかけている
 夢の底なんかであるものか
 飛行機雲が飛行機を追いかけている
 うん うん うん うん
 うん うん うん うん
 うん うん うん うん
 うなれよ 仲間
 土偶たち行進する
 おれたち行進する
 集まれ波 波うて波
 はなびら波 ちぢれ波
 めがね波 うろこ波
 波のない波
 地球にささらぬ水の散るなかを

うん うん うん うん うん うん
うん うん うん うん うん うん
うめけよ 影たち

落下傘兵が落下傘に追いつかない
夢の底なんかであるものか
飛行機雲が飛行機に追いつかない

はっは はははは はっは はははは
はっは はははは はっは はははは
はきだせ 炎

土偶たち行進する
きみたち行進する

集まれ波 波うて波
糸くず波 なみだ波
まぎれ波 えくぼ波
波のない波

地球に落ちない光りの舞うなかを

はっは はははは はっは はははは
はっは はははは はっは はははは
はじけろ 細文

落下傘兵が落下傘を追いつめている
夢の底なんかであるものか
飛行機雲が飛行機を追いつめている

はっは しんしん うんうん はっは
しんしん はっはは うんうん しんしん
地球をとりまく 眩暈めまいとなつて

集まれ波 波うて波
びいだま波 指輪波
ぼたん波 ほたる波
波のない波

波うため波の波のなか
波うため波に波うたせ

おれたち行進する
きみたち行進する

波の墓

ゆれあっている ゆられあっている

海のなかの暁
暁のなかの海

光りに風を　風に光りを
突きぬけさせて死んだ稲妻

たとえわたしはきみたちの夢のなかの登場人物
であるにすぎないとしても
きみたちは決してわたしの夢のうんだ人
物であるはずはないことのかしよ

燃えない炎の波　化石しない炎の墓
透明な時の波　縄文の破片の墓

溶けあっている溶かされあっている

水に血潮を　血潮に水を
突きぬけさせて沈んだ潜航艇

きみたちは決してわたしの歌に踊らされ
た音符であるはずはないことのかしよ
たとえわたしがきみたちの歌の音符の影
であるにすぎないとしても

暁のなかの海
海のなかの暁

きらめきあっている　きらめかされあっている

夢に鏡を　鏡に夢を
突きぬけさせて裂けた潜望鏡

きみたちは決して地球の夜から落ちた星屑で
あるはずはないことのかしよ
たとえわたしがきみたちの星屑から欠け
落ちた砂粒であるにすぎないとしても

砕けあっている　砕かれあっている

海のなかの暁
暁のなかの海

明日に昨日を　昨日に明日を
突きぬけさせて消えた夕焼け空

きみたちが決してわたしの鏡のなかの夢
であるはずはないことのかしよ
たとえわたしがきみたちの夢のなかの鏡
であるにすぎないとしても

燃えない炎の波　化石しない炎の墓
透明な時の波　縄文の破片の墓



Drei Männerchöre



Richard Strauss

作曲家R・シュトラウスは、1864年、ホルン奏者のフランツ・ヨーゼフ・シュトラウスを父とし、ビール製造業者の娘ヨゼフィーネ・ブショールを母としてミュンヘンにて生まれた。父フランツは、ホルンの腕前でかなり評価されていて、1871年にはミュンヘン音楽院の教授となり、1873年には王立バイエルン室内楽団奏者に任命されたほどの人だった。けれども、徹底してワーグナー嫌いであり、ブラームスの音楽の同調者だった。

リヒャルトは5歳の時にピアノを学び始めているが、その間に作曲も手がけるようになった。さらに、1872年からはヴァイオリンを、1875年からは宮廷楽長のマイヤーについて理論の勉強をした。そして同年より作曲を始め、1881年「13の管楽器のためのセレナード」で、ハンス・フォン・ビューローに認められた。その一方で、1882・85年には父の組織した小編成の楽団で第一ヴァイオリンを担当し、指揮の面でも、自作の初演を振ったのを皮切りにして、次第に才能を発揮しだした。リヒャルトは、当初からの影響で、ブラームスの音楽に接近しようとした。けれども、や

がて熱心なワーグナー信奉者であったヴァイオリン奏者のリッターとの交流で、ベルリオーズやリストやワーグナーの音楽に開眼させられ、標榜的な作品に興味を示し始める。以後は、世紀末的社会状況のもと、2つの大戦を様々な関連の中でぐり抜けながら様々な分野において作曲活動をつづけた。

作曲家としてのリヒャルトは、宗教音楽こそほとんど書けなかったが、その他の各分野にわたって作品を残した。それらにおいて、新しい革新的な技法をみせるよりもむしろ表現意図に合う書法を積極的に採用した。その音楽には、バイエルン人らしい朗らかさと明瞭性がある。創作の主要な分野はオペラ、交響詩、歌曲だが、これらの作品には適切な性格描写と感情表現があり、独特の流れる旋律がある。

リヒャルトは、ナチス台頭期に当局に迎合したとして批判されることがあるが、それは一族の保全のためでもあり、芸術的な良心から、音楽局の総裁を辞任したりもしている。ドイツの敗北で戦犯に問われたが無罪になり、スイスで静かに余生を送ったあと、1949年に亡くなった。

Friedrich Rückert

抒情詩人で東洋文学の紹介者。1788年3月16日シュヴァインフルトにて生まれる。ヴュルツブルクやハイデルベルクなどの各大学で法学や古典言語学を学んだ後、1811年にイエーナ大学の私講師になる。1816年にシュトゥットガルトでコック書店の「モルゲンブラット」の編集者として文芸欄を担当する。1818年ウィーンで東洋学者ハマー＝ブルクシュタルのもとでベルシャ語を学ぶ。1820年より26年までコーブルク近郊のノイゼンに住み、そこでルイーゼ・ヴィートハウス＝フィッシャーと結婚する。1826年から41年までエルランゲン大学で教鞭をとる。その後48年まで、フリードリヒ・ヴィルヘルム四世の招きを受けてベルリン大学で東洋語学教授となったが、静かな田園生活を好み、職を辞して再びノイゼンに隠棲した。1866年1月31日同地において死す。

彼は卓越した言語駆使の才に恵まれ、みずからも、「野の花よりも多く 日々 歌はわが筆の下に花咲く」と歌ったように、ほかにその例を見ないほどの多産な詩人であった。彼の詩才の軽妙さはしばしば平板、小手先の技巧に流れる弊があったが、外的な意味での詩形式を多様に最高度にまで高めた点で、詩話の宝庫と注目される。また、彼の詩はとくに典雅な牧歌風、小曲風のものが多かった。

彼の代表作としては「ドイツ詩」の中に収められている「甲装束のソネット」や、「詩集」の中の「恋の春」などがある。遺稿に感動的な「子供を悼む歌」があり、これはしばしば作曲されている。

彼の言語駆使の才は、70ヶ国語を習得したといわれるほどの語学力と相まって、翻訳、翻案（とくに東洋文学）の方面で豊かな業績を残したといえよう。

シュトラウス体験

20年くらい前、一人旅でウィーンに行った時のことである。まだ外貨の割当てがあって思うように旅ができなかった頃のこと、ウィーンでどんな演奏会があるのか調べて貰ったら、国立歌劇場で「バラの騎士」をやるといので、早速切符の予約をして、ロンドン、ベルリン、プラハを廻ってウィーンに入った。

当時、私はオペラのことはよくわかってなかったが、カラヤンの「バラの騎士」の映画で見て、感激していたので、「バラの騎士」の本物を観たかったから、興奮して見に行ったのだが、期待通りというか、一生忘れられないオペラ見物をして日本に帰ってきた。

帰ってきて、この「バラの騎士」の話をしたら、それはクライバーののではないかという友達がいる、「それは一番すばらしいものを観たんだ」と言う。早速家に帰って蔵ってあったプログラムを見たら、カルロス・クライバーと書いてあった。

その後あれはいつの「ザルツブルグ音楽祭」だったか、カラヤン・ベルリンフィルの「英雄の生涯」を聴いて、鳥肌の立つ思いをしたことがある。

その前年に、カラヤンとベルリン・フィルが仲違いをして、仲直りしたばかりの「ザルツブルグ音楽祭」だったのだが、ザルツブルグの人々がカラヤンを迎える感激ぶりは全く異常だった。演奏家としてこんな幸せはあるんだろうかと思った程だ。

この演奏はいろいろ話題になったが、この「英雄の生涯」も凄かった、と私は聴いている間中、興奮していた。だが終わっても長い間静かで、オヤと思った頃、バラバラと拍手が起こると津波のような歓声と拍手、と隣にいる女性は涙を流して拍手している。こんなに感動している姿を間近に見たのは初めてだ。私には忘れられないシュトラウスだった。

こんな体験が私にシュトラウスを演奏したいと思わせるのである。

関屋 晋



〈Vor den Türen〉

Ich habe geklopft an des Reichtums Haus;
man reicht mir 'nen Pfennig zum Fenster heraus.
Ich habe geklopft an der Liebe Tür;
da standen schon fünfzehn andre dafür.
Ich klopfte leis' an der Ehre Schloß;
hier tut man nur auf dem Ritter zu Roß;
Ich habe gesucht der Arbeit Dach;
da hör' ich drinnen nur Weh und Ach!
Ich suchte das Haus der Zufriedenheit;
es kann' es niemand weit und breit.
Nun weiß ich noch ein Häuslein still,
wo ich zuletzt anklopfen will.
Zwar wohnt darin schon mancher Gast,
doch ist für Viele im Grab noch Rast.

〈Traumlicht〉

Ein Licht im Traum hat mich besucht,
es nahte kaum und mahm die Flucht.
Der Blick ist tief hier eingesenkt,
den, als ich schlief, du mir geschenkt.
Hell dämmert mild am Tage wach,
o Nachtgebild' dein Glanz mir nach.
Komm oft, o Stern, in meiner Ruh'!
Dir schließ' ich gern die Augen zu.
Hell dämmert mild ein Licht im Traum
am Tage mir nach.
Komm oft, o Stern, in meiner Ruh'!
Dir schließ' ich gern die Augen zu.

〈Fröhlich im Maien〉

Blühende Frauen, lasset euch schauen
fröhlich im Tanze unter dem Kranze!
Tanzet zu zweien unter Schirmeinen,
tanzet am Reichen fröhlich im Maien!

Prüfende Kenner, kommet, ihr Männer,
sehst die klaren Bilder sich paaren,
tenzen zu zweien unter Schirmeinen,
tanzen am Reichen fröhlich im Maien!

Freut euch, ihr Alten, junger Gestalten!
Wie ihr gesprungen, springen die Jungen.
tenzen zu zweien unter Schirmeinen,
tanzen am Reichen fröhlich im Maien!

Junge und schöne Töchter und Söhne,
Enkel nicht minder reizend als Kinder,
tenzen zu zweien unter Schirmeinen,
tanzen am Reichen fröhlich im Maien!

Junges Gelichter, ihr seid nicht Richter;
Jünglinge, wählet, eh' es euch fehlet;
Tanzet zu zweien unter Schirmeinen,
tanzet am Reichen fröhlich im Maien!
Tra la la la...

Blühende Frauen, lasset euch schauen
fröhlich im Tanze unter dem Kranze!
Tanzet zu zweien unter Schirmeinen,
tanzet am Reichen fröhlich im Maien!
Tra la la la...

〈戸口で〉

私は富の家のドアを叩いた
その家人は窓越しに私に1ペニヒを手渡した
私は愛の家のドアを叩いた
そこには既に15人の先客がいた
私は名誉の宮殿を小さく叩いた
ここは馬に乗った騎士だけのために開かれていた
私は勤める所を探した
そこでは悲しみと嘆きだけを聞いた
私は満足の家を探した
その家を知る人はどこにもいなかった
今私はようやく静かにたたずむ小さな家に気づいた
最後に私はその家のドアを叩こう
確かに中には既にかなりの人数の人々が住んでいるが
それでも多くの人にとって安らぎは墓の中にあるのだ

〈夢の中の光〉

夢の中で一筋の光が私に差していた
近づくことも遠ざかることもなく
その視線がここに深く刻まれる
眠っている間に私に贈られた視線が
目覚めている昼間は輝かしく優しい薄明かりが私を包む
おお、夜の形成物よ、お前の輝きは私に向けられている
幾度となく訪れよ、おお、星よ、私の眠る間に
お前のために私は喜んで眼を閉じよう
夢の中の輝かしく優しい一筋の光が
一日中私を包む
幾度となく訪れよ、おお、星よ、私の眠る間に
お前のために私は喜んで眼を閉じよう

〈五月の喜び〉

花盛りの女性よ、私達に見せておくれ
楽しい踊りを花冠を乗せて！
二人で踊ろうシャルマイの調べに合わせて
円を描いて踊る 五月の喜びを！

熟練した観察者達よ、やってこい
この明確なつがう姿を見よ
二人で踊る シャルマイの調べに合わせて
円を描いて踊る 五月の喜びを！

楽しもう、年長者達よ、若者の姿を！
貴方達がかつて飛び跳ねたように若者達は飛び跳ねる
二人で踊る シャルマイの調べに合わせて
円を描いて踊る 五月の喜びを！

若く美しい姉妹達と兄弟達よ
孫達はもはや可愛い子供ではない
二人で踊る シャルマイの調べに合わせて
円を描いて踊ろう五月の喜びを！

若いならず者達よ、お前達は審判者ではない
若者達よ、選ぶのだ 失ってしまう前に
二人で踊ろうシャルマイの調べに合わせて
円を描いて踊ろう五月の喜びを！
トゥララ...

花盛りの女性よ、私達に見せておくれ
楽しい踊りを花冠を乗せて！
二人で踊ろうシャルマイの調べに合わせて
円を描いて踊ろう五月の喜びを！
トゥララ...

ちよいぐり'95
お座敷（外部出演）のお知らせ……各種イベント（冠婚葬祭、レセプション、パーティーetc）にてコーラスお手伝い。
イベントを鮮やかに彩ります。まずは、御連絡下さい。☎075-1251-1318（呼）同志社グリーククラブBOXまで。

OKA SOUND STUDIO VIDEO, RECORDING, DESIGN
株式会社 サウンドスタジオ **OKA**
〒606 京都市左京区下鴨半木町70
☎(075)712-5710 FAX (075)721-0835



私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で今宵のコンサートのCD制作を担当しております。

Apple Computer
Authorized Reseller

システム設計・販売・サポート・出力サービス
OKA GRAPHIC CENTER
〒606 京都市左京区下鴨半木町70
☎(075)711-6155 FAX (075)711-6758



TAMA - HIME - DEN

ちょっと気取ったパーティー・プラン
お一人様¥6,500（飲み放題）より

梅田玉姫殿
〒530 大阪市北区鶴野町4-16
TEL (06)374-8333代

ちよいぐり'95
コンパ募集のお知らせ……私たちグリーメンは素敵な女性との出会いを求めています。
年齢、職業不問です。我こそはと思われる貴女、まずは三回生外政まで。

FREE WAY
フリーウェイ



日本教育旅行

☎ 075(351)0405

文化系 体育系 テニス
サークルどんなクラブでも
合宿のことなら
日本教育旅行 に
ど〜ん とお任せ下さいませ。



京都市下京区下珠数屋町通東洞院東入
日本教育旅行株式会社
☎ 075(351)0405

覇気覇気

はきはき

した会社です。

マルチメディアがどうのこうの。世間は何とかかしい。
でも、そんな技術・情報を使いこなすのは、やはりヒト。
覇気をもって仕事に取り組む。覇気をもってお客様に接する。
私たち双林は、ヒトを真ん中に技術・情報を動かす会社です。

アイデアと技術で情報産業を担う
株式会社 双林印刷社
本社・工場 〒601 京都市南区新千本通十条下ル
Tel (075)681-7748 Fax (075)672-5602
大阪営業所 〒530 大阪市北区西天満3丁目1番5号英和ビル902
Tel (06)311-0489 Fax (06)311-0493

フェアウェル (今年2/17)

同志社大学学館ホール

フェアウェルコンサート・四年間このクラブで歌い続けてこられた先輩方の最後の演奏会。楽しかったこと、苦しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、様々な思い出を胸にみなさんはこのクラブを去っていかれることでしょう。今年の四回生は総勢15名と人数では少なかったものの、個々の実力はすさまじく、また、個性的な方ばかりでしたので、この方々とお別れすると思うと、寂しい限りで筆も思うように進みません。やはり、このコンサートは、今までお世話になってきた四回生方がこれを機に卒団されてしまうとあって、見送る我々の演奏にも力が入ります。決して、涙なくしては語れないこのコンサート、当日は入場無料ですので、皆様ぜひ同志社大学学館ホールにご来場下さい。

〈Top II マトウイ〉

東西四大学合唱演奏会 6/17

昭和女子大学人見記念講堂

同関交歓演奏会 6/25

フェスティバルホール

今年も東西四連の季節がやってきた。首都決戦と意気込んで人見記念講堂に乗り込んだ私たちを待ちうけていたのは、当日午前0時まで奮闘を曲めず学グリーメンだった……。そんな私の体調はなんかおかまいなしに幕を開けた四連は早くも1stステージで最高潮の興奮を迎えていた。黒岩英田先生の一振りに久瀬先生は情熱的な指さばきで、井上先生は包みこむソロで応え、パーカッションが鋭くリズムを刻むや否や会場は『御誦』の世界となったのである。その興奮はその後続き、ストームを歌い終えた同志社グリーは大砲の如くに迫り来る拍手の嵐に満面の笑みで応えていた。一週間後大阪に凱旋してきた我々は同関交歓演奏会においても名演奏を行った。なかでも『草野心平の詩から』は多田武彦先生から賛辞の言葉が戴ける程の出来であった。『御誦』もお涙頂戴の名演であった。ただ一点、犬がステージに乱入するまでは……Q

何度も裏返ってごめんなさい。

〈ザコモ人〉

夏期演奏旅行 8/4・5

8月4日午前10時、天王寺駅到着。そこにはすでに十数名のグリーメンが集結していた。演奏旅行マネージャーとして初めての演奏旅行(早くついたはずなのに……)4回生K堀さんから切符を配るよういわれ配っていると、気づくと時間は10時20分。まだ、フレッシュ3人来てない(どうしよう)。10時28分彼らはゆうゆう歩いてきやがった。

当日移動の当日演奏会というハードなスケジュールもなんのその、副指揮者のS田さんのデビューや現地の方の暖かいお迎えがあって、当日は御坊市に同志社グリークラブのハーモニーがごだましました。終わった後にお客様が「とってもよかったです。」と言ってくださったのが心に残りました。

〈Top II J〉

全同志社メサイア演奏会 12/24

京都コンサートホール

12月24日の聖夜、我々はキリスト教徒に変身し、ヘンデル作曲の「メサイア」を演奏します。「メサイア」はヘンデルが作曲した中でも最も有名な曲で、オーケストラは同志社交響楽団、女声は同志社女子大学メサイア研究会と一般公募の方が担当しています。「メサイア」はオラトリオと呼ばれ、キリストの生誕から受難、復活に至るまでの生涯を、ソロの独唱、合唱、管弦楽が交替で演奏するものです。「メサイア」の中でも最も有名な曲といえば第44番の「ハレルヤコーラス」でしょう。「ハレルヤ」とは「神を賛めたたえよ」という意味です。そして最終曲の「アーメンコーラス」。「アーメン」とは「まことにそのとおりです」という意味で、神の救いを誉め賛える壮大な音楽です。そしてヘンデルの洗練された音楽を歌い上げた我々は感動の涙を流すのです。みなさんもこの感動を京都コンサートホールで味わってみませんか。

〈Bass II だいすけ〉

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

新勧オリエンテーション 4/1~7

大学生になりたてホヤホヤで、右も左も分からない新入生にグリーメンはさわやか声をかける。登録相談をエサに連れてきて、食事をおごり、彼らを巧みにこちらのペースに引き込み、ミニ演奏会に誘う。そして最後の曲が終わった瞬間一全員でオニの様に入部を迫る。そこでのプレッシャーをはね返して断ることのできる強者は少ない。仕方なく「入部します。」とってしまった新入生には、王将での夕食会が待っている。そこでは更に激しい説得が行われ、慣れないビールでヘロヘロになり、判断力を失った彼らはとうとう身も心もグリークラブの手中に落ちてしまうのである。しかし、自らグリークラブの門を叩く者もいて、我々を喜ばせてくれた。今年は数は少なめだが、粒ぞろいの頼もしい新入部員を迎える事が出来た。新勧コンパでも、脱いだり、アブない芸をしたりと、早くも頭角を現している。

〈Sec II HEI〉

京都合唱祭 6/4

京都会館

「仮装のど自慢大会」と名称を変えたオープニング・パフォーマンス。今年も5人のグリーメンが登場し、何やら怪しげなことをしていました。しかし、ほかの出場者がそれ以上に怪しかったのには驚かされました。

メインステージでは、「Ave Maria」と、黒人霊歌の「In that Great gettin' up Mornin'」を演奏し、どちらの曲も好評でした。初めて見たステージ上の同グリーがよっぽど印象深かったのか、その夜、人の迷惑も顧みずに鴨川で熱唱していた一回生(一回生に限らないかも……)を見ていると、ふと一年前を思い出してしまいました。そんな彼らも今やれっきとしたグリーメン。これから演奏を通じていろいろな人の心に語りかけていくのだろうか。(一人でひたっている)

そんなこんなで、これからも「人の心に響く演奏」をしていきたいなと思った一日でした。

〈Bari II かく〉

祇園祭 7/17

「同志社グリークラブは毎年祇園祭の山鉾巡行に太子山の曳き手として参加しています。日本民謡を景気づけに歌ってから出発するのですが、猛暑だった昨年とは異なり今年は朝から大雨で、あわや中止か、と思いました。しかしグリーメンの歌声(?)と祇園祭の勢いのためか、天気も回復し無事に行事を終えることができました。猿回しのサルそのものだったY氏、社交界デビューを果たしたH氏、卒団したにもかかわらず参加して下さった岩佐さん。祇園祭は参加したグリーメンに楽しい一日と筋肉痛をもたらしたのでした。」と、ここまで書いて私は筆を置いた。Mは私の原稿を見て言った。「これ、昨年と同じネタですね。あのタイトルはどうしたのですか。『祇園祭の歌の聲、鼻腔共鳴の響きあり』という題名。しつこいからやめたのですか。祇園祭の他では味わえない貴重な体験は先輩はもう無理なのですね。えっ、来年も出たっという。」

〈匿名希望〉

会コン いつでもどこでも

日ごろ、男みれの練習を行っているグリーメンの一股の清涼剤になるのが、女子大とのコンパです。六連の応援女子大をはじめとして、様々なところとコンパを行うわけですが、最近は新たな相手の開拓の方面にも力を入れているそうです。基本的にはコンパというのは、チケットの送りあいをする「チケフレ」を作るために行われるもので、同グリーの場合は大阪の梅田や京都の四条……etcが会場になることが多いです。又、コンパに行くときは、それぞれがそれぞれの思惑を持っていくので、一口にチケフレになるといってもチケットを送りあうだけの場合もあるし、それ以上の関係になっていく場合もあって、その程度は人によって様々です。だからコンパ中でもひたすら騒ぐ人もいれば、二人の世界を作ろうとする人もいて、ここぞとばかりに栄養補給に終始する人もいて、けっこう端から見ていると楽しいし、グリーメンは個性的(?)な人間が多いので、実際の所かなりおもしろいです。

〈Bass I 森 雅章〉

関西六大学合唱演奏会 11/3

フェスティバルホール

およそ4ヶ月の歳月を経て、我ら同グリーは再びフェスに帰って来た。しかもこの日は我々の他にも、関学、関大、立命、甲南、阪大の野郎達も集まっており、ここに文化の日の恒例行事である関西六大学合唱演奏会の火ぶたは切って落とされたのであった。またこの日は、1回生大阪初デビュー記念日でもあった。この日の曲の楽譜を見ると、最初はものすごくきれいだったのに、その面影はなく、赤い表紙はほとんど取れていた。これだけ練習したのだ、失敗は許されない、というプレッシャーで本番前は皆硬くなっていた。が、本番中に見られた、ウエ様の泣きそうになったり、はたまた指揮台から落ちそうになったりする様子を見ると、プレッシャーどころか、グリーメン全員がそっちに気を取られて、かえってリラックスができた。その結果、いつも以上にぞろい大成功となった。

〈Bass II Tazawa〉

広島演奏会 11/19~22

六連成功後、定演に向け本格的なスタートを切った我々は、幸運にも戦後50年の広島で二度の演奏会をもつ機会を与えられた。まず、フェニックスホールで行われた広島文化女子短大音楽学科20周年特別演奏会において、山下一史先生指揮、女声200名によるブラームスのドイツ・レクイエムに賛助出演し、また三次市に移動し単独演奏会を行い、「縄文」や「さすわか」などを演奏した。

スケジュールのあまりのハードさに身も心も、もうイッてしまうのではと懸念されたが、三次では学指揮し野さんの必殺「コバけん」マジックも飛び出し、見事広島でも聴衆と一体となったメンタルハーモニーが発揮された。そうそう、トップの疲労を気づい、ひそかにピッチを半音低く吹いて下さった4回生F原さんの名アシストも忘れてはならない。「ええねん、ピッチの吹き間違い、これが初めてちゃうもん。」

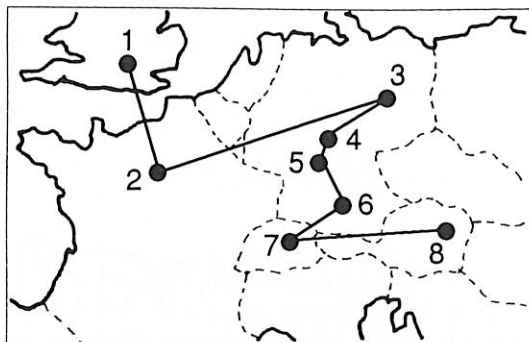
〈Top II きょうた〉

同志社グリークラブ第5回ヨーロッパ演奏旅行

1995.2.14~3.7 団長 澁谷 昭彦 指揮者 本山 秀毅

演奏曲名

- ・愛唱歌集
- ・心の響き | 現代の宗教音楽より
- ・NÉGY RÉGI MAGYAR NÉPDAL
- ・男声合唱組曲「草野心平の詩から」
- ・男声合唱曲「合唱のためのコンポジションⅢ」



- | | | |
|---------|-------------|----------|
| 1. ロンドン | 4. フランクフルト | 7. チューリヒ |
| 2. パリ | 5. キートリヒ | 8. ウィーン |
| 3. ベルリン | 6. シュツットガルト | |

日本 2/14

2月14日、新しくできた関西国際空港から不安と希望を胸に抱きロンドンに向けて飛びたとうとしていました。我々がグリーメンこれから起こらんとしていることに誰も気付いていませんでした。(実は開空においても数時間フライトが後れたのですが、今思えばこの様なことはまさにプロログにすぎなかったようです) ←スイマセン、そんなにすごいものではありません。



イギリス 2/14~2/18

まず最初に訪れたのはイギリスのロンドンでした。海外初体験の者がほとんどであるにもかかわらず皆普段どおりおくことなく思い思い終日フリーを楽しんだのでした。英ルに使ったり、日本語でごり押ししたりとそれぞなど、まるで写真の中のような別世界をさまよったかのように、リフレッシュをしました。17日いで皆の緊張がありありとわかります。それにしてとまどうこともしばしばでしたが、無事成功は演奏旅行であって観光旅行ではないという重大



語を話せるものはほんのひと握り程度の中、体をフレ好きかってに意思表示をしていました。Big Ben ていると、クラブのことなどどこかにいってしまっよいよ演奏会。この演奏旅行初の演奏会ということも本場のチャペルの音響はすさまじいものがあり、(?)を収め、皆まずはひと安心すると共に、これな事実に気付いたのです。

フランス 2/18~2/21

我々の次なる訪問地、フランスはパリである。ここで行われる演奏会は現地邦人との Joint で演奏旅行最大規模のものの一つだけに失敗は許されないものでした。Eglise Saint Germain - des - Pres 教会で演奏したのですがこの教会はパリの中でも大変歴史があり独特の雰囲気の中、我々の歌声が響いた時は何ともいえない気持ちを味わうことができました。この演奏会でのあるハプニングをここで再現したいと思います。

——「あれ? 角 (Top IV) さんがいないぞ」

——「あっ!! トイレに閉じこめられている」

トイレのかぎがこわれ、演奏会本番直前までひらかなかったのです。花の都パリ。しかし美しい都市の裏側は恐ろしいものです。小林 (Top II) がジブシーのガキ共にパスポートをすられたのです。皆様もパリへ行かれることがありましたら、気を付けて下さい。本当に危険です。



ドイツ 2/21~3/1

演奏旅行において最も滞在期間が長かったのが、このドイツでした。ベルリン、フランクフルト、シュツットガルトの3都市を訪問しました。

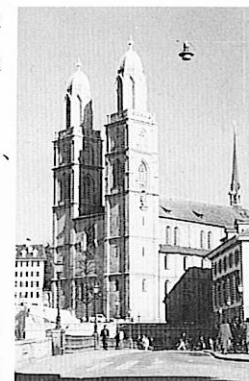
東西統一されたドイツにおいてベルリンはそれがもっとも表れていたように思えました。ベルリンにおける演奏会は旧東ドイツにある ST. HEDWIGS KATHEDRAL 教会で行われました。この教会では宗教音楽のみ歌いました。又この演奏会では、一緒に来ていただいた松下先生に独唱をしていただき、その時は私自身も一人の聴衆となっていました。フランクフルトは本山先生



の思いでの街であり、この地における演奏会は、本山先生の留学先だった音楽大学で行われた。あいにく長期休暇の真っただ中のためお客さんが少なかったが、非常に良い演奏ができました。この演奏会にはこの大学の先生が来ておられたのですが、大変満足なさったのか、演奏後我々グリーメンと握手をなさっておられました。なんだか少しえらくった気分が味わえました。そうそう忘れてはならないのは、キートリヒにおいてミサに参加したことです。グレゴリオ音楽なるものを中心にミサが進んでいきます。すごく神秘的で私自身一番印象に残っています。また本山先生に連れていってもらった店で食べたスペアリブは我々グリーメンの食欲を完全に満たしました。こんなものを日頃食べているからドイツ人はあんなにごつのかと変に納得してしまっ。

スイス 3/1~3/3

美しい自然、我々を見降ろすアルプスの山々、さわやかな気分ひたっている我々にガイドさんが一言、「チューリッヒはジャンキー (麻薬中毒者) が多かったんですよ。今は少しましになりましたけど」あ〜パリの再現か、と不安がよぎったものの、結局これといったハプニングもなく、やれやれという感じでした。ここチューリッヒでは最後の演奏会が行われ、皆これまでの演奏会を思いかえしながら曲を歌いきりました。この演奏会の打ち上げの時にあるおぞましい事件がおこったのでした。名付けて「愛の逃避行事件」。わがグリークラブ91年の歴史において団内恋愛というものは御法度だったのですが、なんとついにそれが発覚してしまったのです。N森 (Top III)、Sき (Bari III) ←本人のプライバシー保護のため実名はふせさせていただきます。この2人が、打ち上げをすっぽかし、それはもうあつ夜をすごしたのです。あ〜なんということなんだ。



オーストリア 3/3~3/6

最後の訪問地、オーストリアはウィーン。ここで演奏会は行わなかったのですが、数々の作曲家を生んだこの地に触れることで団員の音楽的センスを深めるという目的のもと訪れました。(ただ観光しただけじゃないのetc、数々の御意見もあるかと思いますが、ノーコメントとさせていただきます)。ここウィーンではこの演奏旅行の打ち上げがおこなわれたのですが、あまり思いたくない (思いたせない!?) ため今回は報告のほうをひかえたいと思いますが、一言だけおわび申し上げます、「日本の恥をふりまいてしまいました。もうしわけございません。」

気持ちをきりかえて、ここウィーンではオペラをききに行くもの、コンサートに行くもの、ウィーンの森を訪れるもの、本来の目的に沿う良心的な団員が多数の中、カジノにいりびたるというおろかもがいました。(私も少しだけいったのですが、とても楽しかったです。)

まあ、勝てばそれはそれでよかったねといえでやばいらしいので、これ以上それが誰なの万以上負けてしまうということをやったのけましい気持ちのいりまじる中、それぞれ最後の訪



るのですが、ある2回生 (親ごさんにばれたらまかはここでは申しあげられません) は、2人で10した。もうすぐ日本に帰れるという喜びと、さび問地を満喫しました。

日本 3/7

3月7日、約3週間の演奏旅行もついに終わりました。この演奏旅行のために御尽力いただいた皆様方、特に阪神大震災直後という大変な時期にもかかわらず、きもちよく送りだして下さったOBの皆様方、御同行していただいた先生方、そして我々が敬愛する父ちゃん、母ちゃん、本当にありがとうございました。この貴重な体験を一生大事にします。



1995年のあゆみ

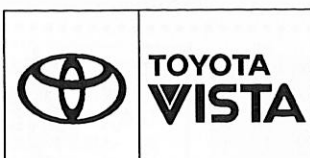
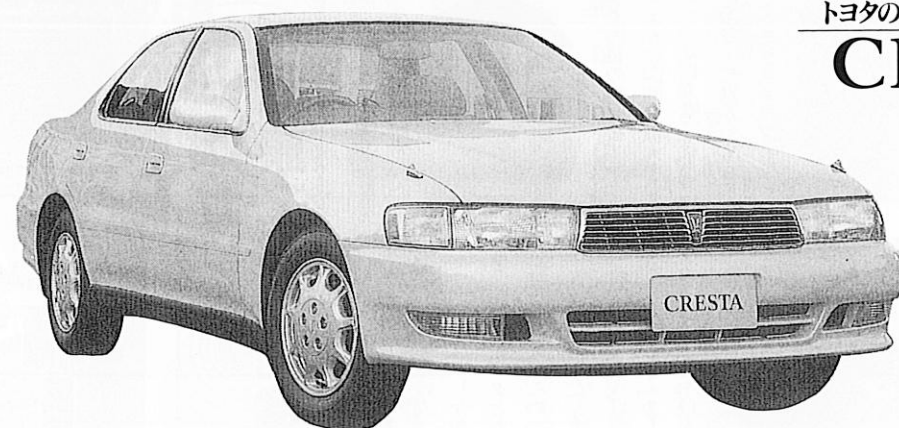
- | | | |
|------------------------------|----------|---|
| 1/14 総会 | 1/28 新年会 | 8/4・5 御坊演奏会（御坊市民文化会館） |
| 2/10 フェアウェルコンサート（学生会館） | | 8/24 六大学対抗ソフトボール大会 |
| 2/14 第5回欧州演奏旅行 | | 9/1 宝酒造創立記念式典（京都ホテル） |
| 3/20・21 1994年度卒業式列席（栄光館） | | 9/4～9 夏合宿（ハチ高原） |
| 4/1 1995年度入学式列席（ディヴィス記念館） | | 9/16 結婚式参列 |
| 4/8 追悼礼拝（同志社礼拝堂） | | アメリカ研究所入学式出席（有終館） |
| 4/9 結婚式参列（同志社礼拝堂） | | 10/7 結婚式参列（新島会館） |
| 4/15 新入生対面式（神学館礼拝堂） | | 10/22 木津第二中学校創立10周年記念式典出席 |
| 4/23 グリーンユースコンサーツ（京都会館第1ホール） | | 10/27 戦没者追悼礼会（府立体育館） |
| 5/14 六連運動会（雨天中止） | | 11/3 関西六連（フェスティバルホール） |
| 5/20 結婚披露宴出席（大阪ロイヤルホテル） | | 11/20 広島女子文化短大音楽科20周年記念演奏会出演（フェニックスホール） |
| 6/4 京都合唱祭（京都会館第1ホール） | | 11/21 三次演奏会（三次市民会館） |
| 6/17 第44回東西四連（昭和女子大学人見記念講堂） | | 11/25 政法会卒業式（栄光館） |
| 6/25 第15回同関交歓演奏会（フェスティバルホール） | | 12/21 第91回定期演奏会（ザ・シンフォニーホール） |
| 6/30 ロータリークラブ会合出席（檀原ロイヤルホテル） | | 12/24 第31回全同志社メサイア（京都コンサートホール） |
| 7/8 総会 | | 12/29 佐渡裕指揮第九出演（ザ・シンフォニーホール） |
| 7/17 祇園祭 | | |
| 7/29 奈良校友会に出席（奈良ロイヤルホテル） | | |

スピードひかえて安全運転 —シートベルトを締めましょう

人へ。社会へ。地球へ。TOYOTA

較べてみれば クレスタ

トヨタの最新パーソナルセダン
CRESTA



あなたの街の
トヨタビスタ南海

〒592 堺市浜寺諏訪森町西1丁5番地

TEL. 0722 (62) 8888

トヨタビスタ南海
お客様相談フリーホーン
おクルマに関するお問い合わせに、真心でお応えいたします。下記の番号へお気軽にお電話下さい。
☎ 0070-800-615000

取扱車種 アリスト クレスタ セプター ビスタ カレン MR2 サイノス ターセル セラ ハイエース ランドクルーザー プラド

TaKaRa

日本の慶び。



お酒は20歳を過ぎてから。
— いい飲み方、あなたと考えたい。 —

20歳からはじまる、お酒とのつきあい。いつまでも健やかにお酒を楽しむためには、体調を考えて飲む。ハンドルを握るときは、飲まない。TaKaRaは、「いいお酒の飲み方」を皆さんと一緒に考えていきたいです。

宝酒造株式会社

ちよいぐり'95

同グリの演奏を10倍楽しく見る方法 No.2
(1) 長田先生の華麗なるテクニク（何の？）

(2) 親方K原さんのソロ
(3) 4回生のアジアジウのアシソ

同志社グリーンクラブ

名誉顧問 遠藤 彰
顧問 谷 昭彦
ヴォイストレーナー 大久保 昭男

幹事 長 富田 尚
副幹事 長 安池 尚志
内政 角 由久
外政 矢野 貴久
久堀 太士
佐藤 利宏
田中 幹人
長森 太郎
水野 武司
角谷 武志
吉岡 康典
坂本 和之
宇都 康之
立原 太
三由 直樹

會計 福米 貴史
平谷 有祐
川口 裕之
藤井 啓介
松田 心
都築 洋
園田 誠
中山 聡
山崎 仁
山田 正樹
御堂 甚昌
黒瀬 誠
浦川 和弘
池永 洋介
松井 和雄

全同志社メサイア演奏会実行委員
広瀬 圭一
中谷 統久
森田 大介
河合 真人
上野 大介
坂田 善弘
梶原 亮
中山 聡
高津 智宏
田栗 雅晴
福原 敦士
本多 慎司
平山 直之
山名 直明

TOP TENOR

梶原 亮 (神4) 兵庫県立神戸
久堀 太士 (経4) 和歌山県立日高
角 由久 (商4) 和歌山県立向陽
池永 洋介 (文数3) 熊本県立済々黶
長森 太郎 (文数3) 兵庫県立川西緑台
中山 聡 (経3) 暁
矢野 貴久 (経3) 大阪府立春日丘

小林 香太 (経2) 奈良県立北大和
黒瀬 誠 (商2) 近大附属
松井 和雄 (経2) 明德義塾
坂本 和之 (経2) 香川県立高松西
山崎 仁 (文数2) 大阪貿易学院
早川 繁彦 (法数1) 愛知県立旭丘
伊賀上友紀 (文数1) 愛媛県立松山東

加藤 一郎 (経1) 愛知県立豊橋東
岸田 輝哉 (工数1) 報徳学院
古賀 竹虎 (文数1) 大検
山口 隆介 (文数1) 滝川
山下 嘉郎 (法数1) 青雲

SECOND TENOR

平谷 有介 (工数1) 帝塚山
園田 誠 (工数4) 大阪府立千里
高津 智宏 (工数4) 愛知
富田 尚 (経4) 香川県立高松第一
川口 裕之 (工数3) 清風
立原 太 (文数3) 近江兄弟社

田栗 雅晴 (工数3) 金蘭千里
畑 克延 (文数2) 大阪府立春日丘
三由 直樹 (商2) 大阪府立三国丘
岡田平八郎 (文数2) 雲雀丘学園
浅川 治之 (法数1) 滋賀県立膳所
藤田 威夫 (文数1) 関東学院

池淵 正樹 (法数1) 鳥取県立米子東
尾家健太郎 (経1) 洛南
社本 吉康 (法数1) 愛知県立旭野
辰巳 尋思 (文数1) 兵庫県立北須磨

BARITONE

福米 貴史 (工数1) 大阪府立三島
福原 敦士 (法数1) 大阪貿易学院
上野 大介 (経4) 大阪府立春日丘
宇都 康之 (商4) 山口県立新南陽
本多 慎司 (商3) 京都府立向陽
御堂 甚昌 (工数3) 大阪府立北野

水野 武司 (法数3) 愛知県立瑞陵
坂田 善弘 (商3) 大阪府立春日丘
関 安記臣 (法数3) 愛知県立江南
安池 尚志 (経3) 静岡県立静岡東
角谷 武志 (法数2) 摂陵
西田 啓 (商2) 大阪府立春日丘

都築 洋 (商2) 大阪府立春日丘
米山 博哲 (神2) 長野県立伊那北
村上 隆明 (法数1) 比叡山
嶋田 和晃 (工数1) 福井県立藤島

BASS

平山 直之 (経4) 大阪府立春日丘
佐藤 利宏 (工数4) 同志社国際
浦川 和弘 (経4) 兵庫県立小野
山田 正樹 (工数4) 同志社
藤井 啓介 (商3) 岡山
広瀬 圭一 (工数3) 名古屋市立向陽
中谷 統久 (法数3) 近大和歌山

田中 幹人 (商3) 愛媛県立宇和島東
山元 進 (文数3) 同志社
山名 直明 (神3) 和歌山県立桐蔭
入江 隆生 (経2) 大阪府立三島
河合 真人 (法数2) 愛知県立豊橋南
松田 心 (文数2) 石川県立野々市明倫
森田 大介 (商2) 奈良県立畝傍

豊田 明朗 (文数2) 栃木県立真岡
吉岡 康典 (経2) 近大附属
石井 隆昭 (経1) 崇徳
森 雅章 (法数1) 岐阜県立大垣北
中村 慎吾 (法数1) 岐阜県立岐山
矢倉 聡明 (経1) 明星

第91回同志社グリーンクラブ定期演奏会OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

同志社グリーンクラブ

大正15年卒 生 田 定 一
昭和 5年卒 松 本 淳
12年卒 藤 井 清
17年卒 鶴 原 太 郎
24年卒 長 島 俊 司
26年卒 伴 善 也
27年卒 武 井 怜 治
松 本 勝 男
28年卒 下 山 茂
馬 場 靖 夫
正 木 康 雄
29年卒 今 川 清
野 村 秀 治
吉 田 庄 之 介
31年卒 佐々木 幹 郎
澁 谷 昭 彦
橋 守
野 村 忠
32年卒 大 島 昌 夫
森 泰 一
山 元 弘
33年卒 南 迫 卓 一
村 上 恵 一
34年卒 森 田 秀 夫
芳 崎 栄 治
35年卒 大 谷 九二男
砂 原 和 彌
田 坂 陽 治
松 村 時 男
36年卒 朝 比 久 雄
天 野 守 信
寸 田 達

中 村 豊太郎
村 田 由 高
37年卒 田 中 惺
38年卒 下 山 生 修
田 村 康 浩
林 田 慎 也
山 内 康 次
39年卒 高 田 一 三
中 西 薫
畑 中 宜 彦
溝 口 久 夫
40年卒 渋 江 膺 一
41年卒 大 原 康 弘
竈 英 夫
木 下 利 彦
北 村 徹 男
橋 詰 崇 史
42年卒 池 田 研 一
栗 山 昭 男
澁 谷 和 彦
山 根 礪
43年卒 川 上 榮
深 木 善治郎
44年卒 小 瀬 昉
藤 田 和 久
45年卒 東 英 達
46年卒 春 成 博
51年卒 薄 井 篤
52年卒 小 林 茂
高 谷 博 次
山 下 裕 司
53年卒 稲 熊 裕 之

徳 山 康 彦
森 島 敏 夫
54年卒 矢ヶ崎 一 之
中 山 篤
55年卒 梶 浦 義 人
56年卒 楠 木 潔
59年卒 鋒 山 琢 磨
諸 江 修
61年卒 尾 池 智 治
小 西 正 俊
63年卒 梅 田 隆 司
冲 原 吉 広
平成2年卒 新 井 正
桑 野 博 之
3年卒 島 田 直 明
池 田 祐 一
竹 内 正
5年卒 鐵 見 太 郎
6年卒 浅 海 誠
産 賀 伸 一
佐々木 道 哉
谷 本 啓
八 尋 秋 彦
7年卒 荒 川 剛
川 島 伸 規
人 見 幸 朋
(敬称略)

※尚、印刷のメ切の関係上、掲載できなかった先輩方もおられます。

水野 武司

自分をみつめるときは今しかない
自分をきたえるときは今しかない
自分をだしきるときは今しかない
こう思ってがんばってきました。
先輩方をはじめお世話になった
方々、本当にありがとうございました。



田中 幹人

今年、みなさんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いします。

長森 太郎

外政になってから、「いったい
自分は何をしているんだ。何のた
めにこうまでしなければならない
んだ。」と、全てを投げ出したく
なったことが何度もある。が、そ
んなときほどに、自分を勇気づけ
てくれる仲間達のありがたさを強
く感じたことはない。

本日はお忙しい中を御来場頂き、誠にありがとうございました。最後になりましたが、このパンフレット製作にあたりまして、原稿を快く執筆して下さいました諸先生方、広告、協賛を頂きました皆様、双林印刷社の垣東様、その他当演奏会の開催にあたり御尽力下さいました全ての方々、そして何より本日御来場頂きました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

1995年12月 同志社グリークラブ
マネージャー一同

上野の決意

1996年2月17日出



第91回 卒団生のための
フェアウェル コンサート

- 同志社大学学生会館ホール
地下鉄今出川駅下車北側
- 開演17:30予定 入場無料



GENNY

PAOLA ANTONINI

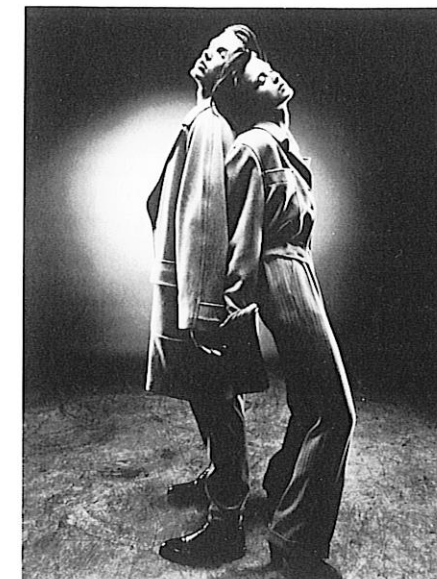
JOAN & DAVID

SPAZIO

malo

FENDI

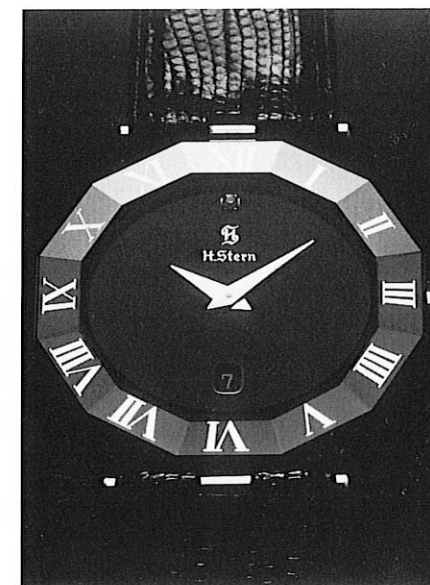
DEVECCHI



byblar



ALMA



H. Stern



EMANUEL
EMANUEL UNGARO

三崎商事グループ

ジェニージャパン株式会社 ビブロスジャパン株式会社 三崎商事株式会社

代表取締役社長 三崎 政二

東京/東京都港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビル7F 03-3403-4371
大阪/大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル5F 06-251-1171